新女界

第二巻　第八號

明治四十三年八月一日發行（毎月一回發行）
明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界第貳巻第八號目次

●打ち解け主義　安井哲子
●愼獨の妙境　海老名彈正
●夏の歐米　本田增次郎
●登美ちやんの日記　有馬憐花
●自然と小供　海老名みや子
●ハープスウエルの夏　谷津直秀
●二通の結婚祝賀狀　聖山生
●赫耶姫（長詩）　淺山尙
●砂州越えて（長詩）　欽泉生
●私の下女に就ての心得　某夫人
●淸國人の結婚式　片山幽吉
●田園生活の一模範　瀨谷孤浪
●摘草集（新聞雜誌瞥見）
●無意味の贈答　安井哲子
●親切　海老名みや子
●境遇と影響　和田信次
●婦人と職業　大塚尙
●編輯だより
●路邊の水たまり（口繪）

完全無缺頭髮用

夏になつて自らも不快、他人をも不快に感ぜしむるものは毛髮のふけと惡臭です、女髮結が屢々病に罹る源は此猛烈な惡臭の爲めに神心を煩ふからだと申します

此點に於て第一に御勸め致しますのは**千代田香油**であります本品は純粹の椿油を根本とし歐米流行の香料を配劑した佳品です

毛髮｛を漆黑ならしめ　ふけを防ぎ　くせを直し

芳香優秀で長時間を保ち香水の代用を爲し自ら心神を爽快ならしめます

特製七十錢　大瓶三十五錢　中瓶二十五錢　小瓶十七錢

試用見本は郵券代用にて御申込次第送附す

スワン石鹼

純白で湯水に浮き價安くして品の善いスワン石鹼は到る處の小間物、化粧品、藥舗にあり

東京馬喰町四丁目
スワン石鹼日本一手販賣
山岸三之助
電話浪三七九三
振替口座一九九七八

婦人世界

八月一日〔發行〕（第九號）〔一冊〕拾五錢〔郵稅一錢五厘〕

◎海水浴で愛兒を失つた實驗……博士夫人 高根雪子

◎無一物の貧家より成功した婦人の實歷……龜井まき子

▼趣味多き名流令孃のお稽古しらべ

▼赤十字病院を訪ふて看護婦の日常生活を見たる記……一松齋素朝

▼印度王殿下の御前で花を活けた實驗……

▼露國女學生を我家に宿泊させた實驗……村松銀次郎

▼暑中休暇を米國人の家庭に暮した實驗……遠藤みつ子

◎流行

◎婦人世界

◎歷史講談

◎婦人の逸話

◎通俗學藝欄

玄米有効論（米飯を食する人の一大警告）……村井弦齋

貧乏時代に於ける我妻の内助……男爵 後藤新平

▼糠を食して脚氣病全快したる實例愈よ多し

▼小兒の入浴には斯くの如き注意を要す……加藤博士

▼警視廳に拘引されて取調を受けた實驗……小久保まさ子

▼海岸に避暑して壯健になつた話……三井夫人

▼西瓜は腎臟病の大妙藥（弦齋夫人料理談）

◎女中紹介欄

◎育兒問答

◎文藝問答

◎齒科問答

◎茶ばなし

◎八十歲で富士登山した老女の實話……齋藤みね子

◎一人で水泳を稽古した實驗……男爵夫人 目賀田逸子

東京京橋南紺屋町 實業之日本社

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

文明堂藏版五書

新刊

シエネーダー氏序
星野光多氏序
杉山海南著

通俗福音物語

基督一代の事蹟を通俗の物語りこしたる萬人渇望の書也、信ずる者も信ぜざるものも共に精讀すべき良書也

菊判三百頁美装
名畫六葉入
總かなつき
實價 七拾錢
小包料 八錢

海老名先生著

山上の大訓註釋

好評八版
定價四十錢郵稅六錢

耶蘇基督傳

好評十二版
定價六十錢郵稅八錢

トルストイ著
加藤直士譯
ト翁肖像

我宗教

好評八版菊版三七〇頁
價七十五錢小包料八錢

新刊

安部清藏氏著

創世記講義

菊判四百三十一頁クロース製
紙質特選
印刷鮮明
實價壹圓卅錢
小包料十二錢

基督教經典の根基、創世記註釋新版
安部氏四ヶ年苦心の作物

發行所 東京神田お茶の水 文明堂 東京神田駿河臺 中庸堂

「神學之研究」夏季號

（七月中旬發刊 紙數約百五十頁）

オイケンの心理生活と基督教眞髓 文學士 瀧浦文彌

自然倫理の結果 教授 ミクー

マレーの基督教倫理 稻垣陽一郎

馬氏心象研究と心身關係の現代思想 神學士 小林彥五郎

ブラウニングのクリスマス前夜 文學士 宍倉保

題未詳 神學博士 ミーンズ

米國ミクー教授及ミーンズ博士は特に本誌の爲め論文を寄送し來れり

（内外神學宗教思潮新刊等）

東京市神田區小川町一番地 **普光社** 振替東京壹七八〇四號

婦女界

八月號出來　一冊十五錢

◎日露戰役中危險の任務を帶び深く滿州に入り遂に永住の計を定めて成功した苦心…伊藤稻子

▼身体を大切にすべし…下田次郎

▼女に教育は要らぬと云ふ愚論…阪谷男爵

▲二條九條兩公爵夫人の交際振…本誌記者

▲女子の職業としての銀行雇員…黒崎日銀課長

▼女子は文藝家として適當なりや…坪內博士

▼何が一家の團欒を破るか…上田博士

◎雜貨行商までして良人の地位を作らしめた十年間の苦辛…佐々木たつ子

▼命を賭して三度强盜と闘つた實驗…上村年子

▼清少納言の性格…戸川殘花

▲夏季看護は如何にすべきか…萩原竹子

▲流行界に於ける最近の傾向…本誌記者

▼姿を美しくするには斯くすべし…田邊學士

▼斯る不注意から子供を弱くす…瀨川博士

◎女灸點師となつて良人に後顧の憂をなからしめ國事に盡さしめた苦辛…岩崎八重

▼大阪の婦人と京都の婦人

▼撫子と文藝

▼夏の瑞西

▼名流婦人の食物

▼夏の鎌倉

▼虫のこゑ〲

▼金魚の話

▼海水浴は斯の如くすべし

▼土產物及び贈物出し方

▼話のたね

▼八月の料理

▼婦女講壇

▼八月の園藝

▼讀者文藝

▼八月に於ける一週間の獻立

▲懸賞募集

東京神田表神保町　振替東京一三五番

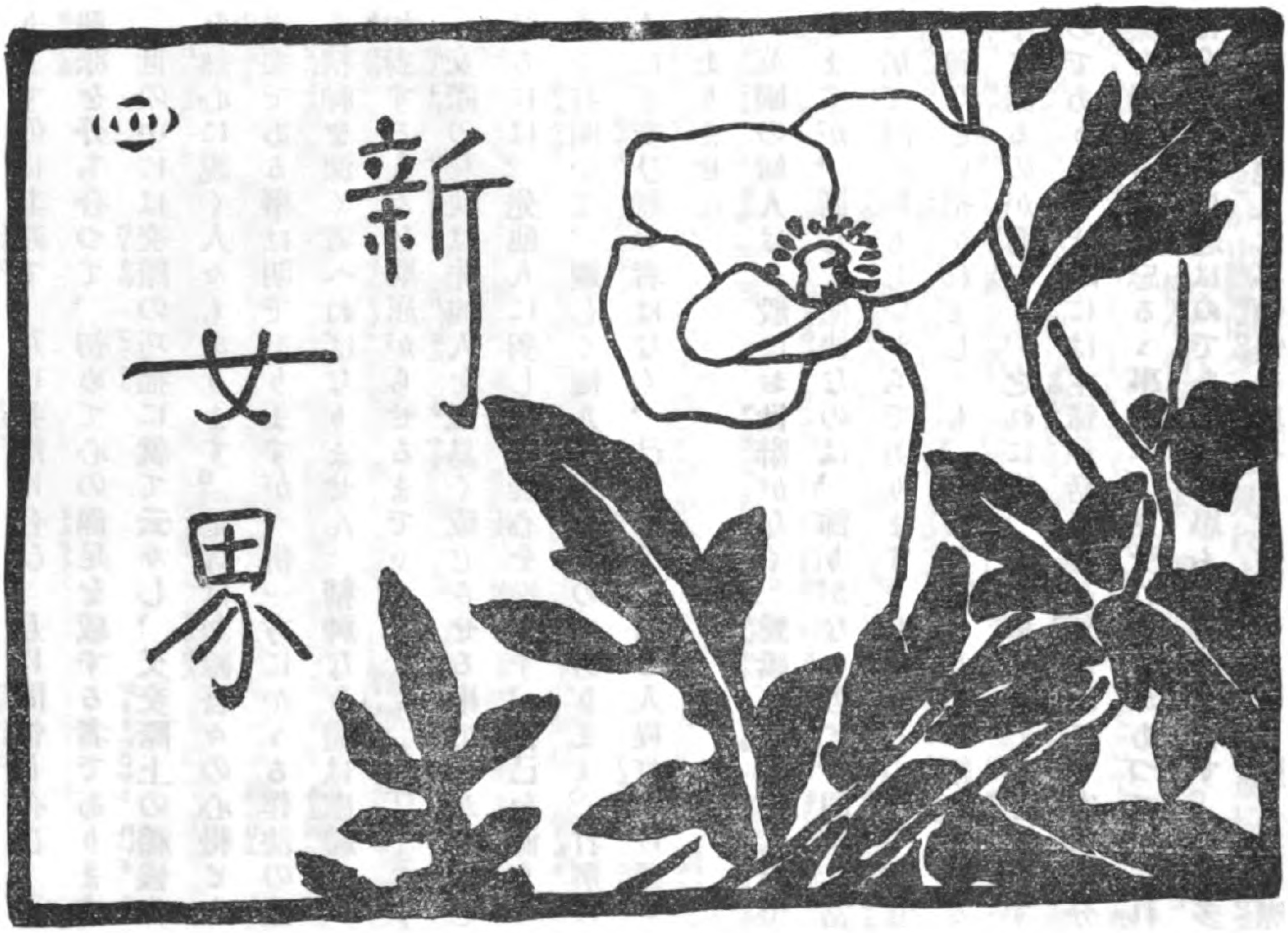
同文館

六冊前金九十錢　十二冊一圓七十五錢

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



第貳卷第八號

打解け主義

安井哲

昨年鎌倉に數日間滯在して居りました時、或朝友人と共に電車を待ち合はせて居りました。處が丁度其處に農夫らしい一人の旅人が來合はせましたが、質朴な田舍人の風として、打解け顏に「お早う御座います」と挨拶を致しました。そこで私が「鎌倉の御見物ですか」と申しますと、「左樣で御座います」と答へ「昨日は實に面白う御座いました」と話しかけました。私は此時話相手のない此旅人に深く同情致しました。一體吾々は美くしい景色を見ました折に「あゝ美くしい」と感じたのみでは滿足が出來ず、「美くしいではありませんか」と友人に其感を分つか、之れを詩歌に詠ずるか、又は文章にでも書き表はさねば、眞に滿足を感せぬ者であります。其故に同趣味の同行者があれば、旅行の興味は一層深くなり、一人旅の場合には、機會があれば自然に其周圍に話相手を求める者であります。之れは人類が社交動物であるといふ一證でありませう。

そこで社交は單純な群居生活と同意味ではありません。吾々が數百人に打圍まれて居ましても、心淋しく感ずる事のあ

りますのは其證で、互に打解け合ひ、互に同情し合ひ、互に興味を分ち合つて、初めて心の滿足を感ずる者であります。

世の中には交際の巧拙に就て云々し、又交際上の禮儀作法を熱心に說く人々もあります。是等は勿論吾々の心得として必要である事は明でありますが、併一方にかゝる作法の生ずる精神を深く考へねばなりません。精神なき禮は虛禮で、唯相對する人々を窮屈がらせるまでゞ、何の愉快も伴ひません。

交際の秘訣は先他人を氣易く感じさせる事で、かく感じさせるには、先他人に對して、疑心を抱かず、自己を飾らず、心を打開いて、親しく他人に對するのであります。打解けぬ人ほど交ひ難い者はなく、己を飾つて居る人程打解け難い者はありません。

英國の婦人は一般にお世辭がなく、愛嬌に乏しい人々でありますが、話して愉快なのは、飾りがないのと、同情に富んで居て誠に賴もしいからであります。其故に茶の會や、食事の會などに招かれましても、食物其物よりも、紹介される相手と語るのが面白く、之れに依つて幾多の珍しい經驗をするのであります。時には主婦が話に心を奪はれて、客に十分茶菓を勸むる事を忘るゝ事さへも見受ける事があつて、これでは余り作法に適はぬであらうと思ふ事もあります。余り多言なのは、他人に不愉快を與へますが、さりとて堅く口を噤ん

で、相當の挨拶も出來ぬのは余り賞すべき事ではありません。又純粹の御世辭で、心は少しも他人の言葉に耳を傾けぬ、所謂交際家と稱せらるゝ婦人方もありますが、かゝる人々は、之れに依つて自身の誠實でない輕薄な性格を表はす事を氣附かぬのであります。其故に吾々は求めてかゝる交際家なる者にならんとする必要はありません。唯誠意他人に對し、深く同情すれば、自然に適當な挨拶が出來、又相應の作法に從ふ者であります。

家族は其性質上、互に相親しむべき者でありますが、心の打解けぬ者は互に秘密があつて、其家庭は愉快な場處となりません。親子間、姉妹間、殊に夫婦間に秘密のある家庭は、最不愉快な場處でありますし、又他人の集合した團體、例ば學校でも、婦人會でも、其他何でも他人が共同して働く場處に、打解けぬ人々のみが在つては、其場處其仕事を吾物と思つて、熱心に働く事が出來ません。其故に吾々は自分と意見の異つた人にも、年の少い人にも、先打解けて互に面白く暮す方針を取るのが、お互の爲めに幸福で、又其屬する團體又は社會の爲めに利益であります。

吾國の婦人會は、概して一同沈默して講演でも聽くとか、又は餘興を樂しむとかいふ方法に依つて、相互の利益を圖り、又樂を共にする樣でありますが、會員互に打解けて話をする

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

といふことが比較的少い様に見ゑます。之れは互に隔てあふのが一原因で、假令打解けても、同志の者のみ打解けて、他の人々にはよそ／＼しいからであります。そこでかゝる習慣を破つて、暖な愉快な會合を試み様としますには、先比較的身分の高い方、年長者、位置の高い者、及經驗の多い人々が、此主意で、他の人々に打解ける様に力めねばなりません。さもなくば、吾々禮儀の正しい國に生れた者は、自然に上の方々に對して愼しみますから、互に打解ける機會がありません。殊に互に進歩發展しやうとする場合などには、先進者が後進者に親しんで、互の元氣を削がぬ様に努むるのは、實に大切な事であります。

要するに、社交的の傾向を備へた吾々人類は、他人と共に親しく生活する事が、其本性を滿足させるのでありますから、家庭内は勿論、學校でも、社會でも、互に先心を打開いて、心置きなく交る事が肝要であります。打解けるといふ事は決して誰彼の區別なく、心の秘密を打明けるといふ事ではありません。相對する人を心易く感せしむるといふ事で、それには他人に對する同情と、廣い興味とを要するのであります。

湯臺叢話 其一

谷津直秀

一 或る夏ヴルツブルグに着する三つ程前の停車場で、二人の女の先生がついて、十三四を頭に八九歳までの小學校の女生徒が四十人も遠足の歸りで、我先きにと滊車の入口に入つて來ました。私の居つたクペー車室の前に四五人來て車中を窺ひ、外國人の居るのを見て少し驚いた樣子でしたが、遂に入てきました。私は頻に案内記を研究して居ますと、初め小な聲で皆おとなしくしようと云つてゐましたが、五分もたゝない中に此禁制はいつしか破れて、動物園の小禽の籠の樣になりました。滊車はヴルツブルグの市に着いて私が下り樣とすると、其中の人がマー御先へと丁寧に云ふ。私は手提を持つて居ましたから、其子供を出して後に下り樣とすると一人が 取つてあげませう」と手を出します。然し重いものですから自身で下ろしました。此は只一例でありますが何にしろ獨乙の子供が外國人を恐れないのみでなく、其人を尊敬して一片の親切でも盡さうと思ふ心持ちが咄嗟の間に出る樣に教育してあるのは感心しました。

二 ジョン、ウエスレーが嘗て書生のとき家の間の小路を通つて居りましたとき、暴漢が突然顯れ「貴樣の樣な馬鹿者には道は讓られ！」と大聲で叫びました處が、ウエスレーひるむ色なく慇懃に腰をかゞめて側により「私こそ何時でも」（I always do.）と云つたそうです蓋しウエスレーは靈に滿たされて居つたばかりでなく 言葉も巧であつたのでしよう。

三 ボン見物をした人は誰でもベートーブエンの生れた家を尋ねないものはありますまい。或る日の事二三人づれの年若き音樂生らしき米國の女が來まして、ベートーブエンのピヤノーの前に座し、先づ無雜に「月光の曲」をすませ、扨て番人に向ひ「此處では隨分奏いた此人があるでせうね」と云ひましたら、番人が云ふのに「餘程以前の事、此處にパデレブスキー（有名なポーランドの音樂家）が來られた時、皆が是非にと願つたけれど、私の如き者の手を觸るゝは恐れ多いとて頻に辭されたけれど、無理に強いて一曲うかゞつた事がありましたが、あなたの前にはこれが一度で御座いました」「其時の音樂生の顏が見物だつたらふと思ひます。

講壇

慎獨の妙境

海老名彈正

世の中をおしなべて考へて見ると「獨り」と云ふ實驗をする事は樣々ある。我等は父母を失ひ、兄弟を失ひ、たつた一人と云ふ、孤兒の境涯にある者を知つて居る。一人と云ふは憐む可きものである。人生に於てこれ程悲しい事はない。我々の教會に於ても甞つて然う云ふ人があつた。生活の寂びしさの餘り、東京にも居り兼ねて、淺間山に行つた。而して噴火口に飛び込まうとしたが、其一刹那思ひ當つたものがある。自分には父母もない。兄弟もない。けれども本郷教會の兄弟がある。獨りではないと氣が付くと我は死ぬる事は出來ないと斷然思ひ返した。今や彼は其鄕里に歸つて、妻を迎へ、實業を營んで人と共に樂しく暮らして居る。精神的から云へば純然たる利己主義の人は一人である。家にあつても自分の事ばかり考へるなら、親兄弟と雖、仇敵の如き心がする。況んや社會に出ては敵ならぬものはない。よし利のある時は友となつても利が無くなると忽ちにして敵となる。如斯人々は人の事を彼此と批評して始終世の中に不平を持つて居る。敵なきに敵を作る、何もかも邪推して善い事も惡く解する。これが眞の「孤獨」である。如斯人に幸福は得られない。此等は一人になればなるだけ救ふ可らざる死に陷る。これに引き返へ、利己ならずして「獨り」と云ふ境遇を經る所のものが澤山ある。我々苟も人として生れた以上、父母が居ても、兄弟が居ても、獨りと云ふ場合がある。その場合の心掛から或は君子となり、或は小人となる。古の人の云ふた如く閑居して不善を成す者は小人である。人知れず惡い事をする。小供などが獨り默つて居るから、善く大人しくして居ると思つて居ると、むつ／＼いたづらをして居る。然う云ふ心は中々免れ難いものである。

△御前の罪

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

けれども善い方から見ると「獨り」は人間として無くてならぬものである。態々禪寺などに入つて坐禪をする、あれは何の爲かと云ふと唯一人居る時の稽古である。默然として思を沈める修養は誠に必要である。けれども多くの場合には一人にはなつて居らない。例へば祖先を祭つてある佛壇の前、或は神棚の前で一人祖先の事を思ふ時には身は一人であるが心は祖先と共にある。又書齋にあつて古人の書を繙く。其時には目に見ゑぬ古の人を友として居るのである。所が祖先を思ふのでもなく、見ぬ世の人を友とするのでもなく、唯一人居る場合がある。それは我と我心を省みる時である。佛者の言を借りて云へば見性をするのである。目を以て見ず、耳を以て聞かず、獨り心の奥底に入つて考へて見る所には味がある。かくして深く入つて行くと目に見ゆる此世の關係は申す迄もなく身體とも離れる。此身は我身體である。けれども我その物じやない。一人と云ふ所は身體とは違ふ。それを斷ち切つて奥なるものを見る。此世の交際を斷ち、祖先とも斷ち、個人とも斷つて誠に一人となる。而して我は如何なるものかと考へる時に怎うなるか。そこには自分ながら嫌やな思ひもある。案外に穢れ、案外に汚れて居る。古の詩人が我罪は常に我前にありと歌ふたのも思ひ當る。見とがめられて批評さるゝからじやない。誰も知らぬ罪がある。心苦しい我がある。我唯御前に罪をなせり。此心持である。卽ち眼前に神を見てひれ伏すより外に術知らぬ幼子の心である。父母に對して罪を犯したのじやない。兄弟に對して罪を犯したのじやない。世間に對して罪を犯したのじやない。神よ、あなたの前に罪を犯しました。あなたは今我を悩まし給ふ。と云ふ意識は辿り深き人の通過する所である。人に對する罪は詫びればよい。けれども自分に對して濟まぬ事は話しても除かるゝものでない。世間の人はそこに氣付かぬ。奥深き「獨り」と云ふ境涯を通らずに表面を氣にして人の顔ばかり見る。世間の評判に依つて行を二つにする。クリスチヤンに對して怎う云ふ者がある。自分は人に迷惑をかけぬ。親にも不孝をせぬ。決してクリスチヤンに劣りはせないと。併し乍ら大人の目から見れば怎うであるか。憐む可し、彼等は獨りを知らない。

△獨り豐かなり

我々は困難を味ふ。けれどもそれだけで宗教には入れぬ。逆境の上に逆境を通る。けれどもそれだけで宗教に據らねばならぬとは思はぬ。自分を能く認めるには自分で自分を見なければならぬ。我罪を人と比較するのでなく、我が我に比較してかゝらねばならぬと考へる。けれどもそこを通つて自悔い、自恥だ、自謙つて來ると今迄ならぬ實驗が味はれる。これが心の

貧しきものゝ天國に入る所以である。所が獨りはも少し先にある。罪は我にあるかと云ふと我その物でないと云ふポーロの自覺は獨りと云ふ上に於て貴い。その獨りは清い心の本體である。これは陽明の良智、大學の明德、佛教の佛性である。更に常並の人の語を以てすれば良心となり、基督教の語を以てすれば神の子の姿となる。獨りはそこに入らねばならぬ。神の子たる美しい貴い性格となつて罪科の世界を外に見る。我なる「獨り」と云ふ所に入つて見ると自愼まざるを得ぬものがある。其處には神の子たる美しい貴い所がある。我々の尊崇し奉る神、宇宙とも比べられぬ清く大なる方が我が中に在す。それを愼むのである。故にしつかりと獨りを認めて自覺した時には神を自覺したのである。

　愼獨と云ふ言葉は儒者に用ゐられた。儒者は果して之を自覺せるか、怎うか知らぬが、我々クリスチャンの生活は愼獨である。獨りと云ふ中には寂しい所がある。親子兄弟から離れた時、古の人から離れた時、誠に苦痛である。自分は眼を病んだ爲に五年間讀書が出來なかつた。其時は自分の罪惡と云ふ觀念がひし／＼と胸に當つた。如何にも寂しい。友人と共に犯した罪なら語り合ふて慰むる事も出來やう。けれども人知れぬ所で犯した罪は慰むる術もない。而してたつた「獨り」になる。恐々然として恐れざるを得ない。或人々は此境涯より推して寂然と云ふ所が宗教の本體かと思ふ。けれども然うじやない。パウロは云つた、神の國は飲食に非ず、義と和と聖靈に由れる悅樂なりと。何の意味か。絕對の獨は唯神あるのみ。こゝに到着せずしては未だ獨の性格を知るとはいへない。さてそこには萬有盡く住す、孤獨の自覺は忽焉として無窮の自覺となる。絕對の獨中には有ゆる物が離然として出て來る。日月星辰と云はず、父母兄弟と云はず、一として具はらぬものはない。此大なる「獨り」に入つた時に我々は忽ちにして豐になる。其處に貴い清い感想が湧き起つて、世界を友とするに至る。嘗つては宇宙を目して外物となしたものが今は神が萬物を見給ふ如く我物として之を觀する事が出來る。クリスチャンはつまり此境涯に來らねばならぬ。基督言はずや、我一人あるにあらず、父我と共に居り給ふ、又曰はく父のものは我物なりと。この絕對の獨を見出すものには萬有悉皆復活して來る。愼獨の妙處こゝに到つて極まるのである。

僧になる子の美しや芥子の花　一茶

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

夏の歐米

在米　本田増次郎

△熱帶國の夏！想像するだけでも苦熱を感ずるやうであるが、七月下旬に予の觀たハワイは、草木といひ花實といひ珍奇で目を喜ばすものゝのみであつた。土人の婦女が着て居る寛濶なフワ〳〵した寢間衣やうなものは、如何にも氣候に適した自然の發達と考へられた。住馴れた日本人の色の黑くなれるに驚いた。西洋人が日に燒けると赤くなる、日本人は褐色になるのが常であるが、ホノルヽで見た日本の男女は土人の色のやうに黑くなつて居た。して見ると人種一源論が尤で、氣候や食物などの爲めに皮膚の色が分化したのらしく思はれる。兎も角朝から夕方までの觀光で十分と感じて、さる日本料理店のシヤモ鍋に舌皷を鳴らしてハワイを辭した。

△カリフオーニヤは冬のない國と聞いて居たが、夏はあるとも〳〵大ありだ。暑い上に雨がさんと無いので草は枯れてしまふ。病弱者の避寒にはハワイもカリフオーニヤも甚だ佳しといふ事であるが、無論避暑に行く處ではない。それから汽車で五晝夜走りツヾけて大陸を橫斷する。合衆國南西の部分には、際涯なき沙漠のやうな中を、時々荷馬車が土沙の雲を起しつゝ馳せて居る。汽車の中へ埃の飛込むこと夥しいもので、アルカリが澤山混つて居るので唇が荒れてピリ〳〵する。一夜車中で眼を醒して見るとジイ〳〵と蟲の鳴く音がする。はて此囂々たる車聲を貫いて草原の蟲を聞くとは不思議だと思つて翌朝人に尋ねると、ロッキー山脈の高處へ上つて又下るので、急に空氣が薄くなる爲め耳鳴を催うすのだといふ。空想にしても暫し蟬や蟋蟀を異郷に聞いたのは儲けものであつた。

△ニユーヨーク市に着いたのは八月の上旬。中央停車場に荷物を預けたまゝ、先づ日本人の友を尋ねてから宿でも定めやうとした。商會の引け後で其の人の私宅も分らぬ、もう日も暮れかゝつたから一泊の上と思案した。とあるホテルの帳場に申込んだ處滿員だと體よく斷はられた。能く考へて見ると着のみ着のまゝ手にカバンの一つも提げて居ないので、冷遇されたのも無理ならずと分つたかたから、次のホテルでは前金拂ひを申込んで浴室付きの部屋に有りついた。何より先にと五日間の塵埃を洗ひ流したは善いが、サー衣替へがない、寢間衣一枚もない。總身の智慧を絞り出して、浴室にある大々形タウエルを衣て一夜を過ごした。米國に上陸してからまだ一週間もたゝぬに早くヤンキー化したものだ。

△ニユーヨークは暑い〳〵。緯度から云へば青森と同じほど

北にあるが、家屋の構造と草木のある空地の少ないのとで、煉瓦や石の熱したのと往來の熱けたのと相合して堪つたものでない。加ふるに電車、馬車、高架鐵道の響で晝夜攻められては、住み馴るゝまでの苦悶容易なものでない。蚊や蚤の居ないのは何よりの仕合せだ。但し空氣が乾燥して居て、日本のやうに蒸し炎くないから、靜座して默想すると腋間から涼風が湧いて來る。下街の河に夾まれ港に臨んだ處で、十階二十階三十階の上に居れば、吹き通しも見晴しも佳くて避暑の必要が少ない。但し地下鐵道の異臭の中で蒸されつゝ、三十分も五十分間もかゝつてズツト上の方から通ふのが苦しい事だ。毎年夏になると日射病で死ぬる者の事が世界中に電報されるので、事情を知らぬ人は、ニユーヨーク市街でコロリ〳〵天日で燒け死ぬるやうに思ふが、これは唯貧民窟の中に時々ある事で、四百萬の住民が悉く焦熱地獄に投せられて居るわけではない。

△二三日でニユーヨークを御免蒙つて北の方ロードアイランド州のニユーポートへ出かけた。宗教界ではチヤンニングに因つて知られ、日本人には水師提督ペリイの生れ處又墳墓地として記憶され、米國の社交場裏に於ては避暑地の女王と稱へらるゝのである。新英諸州の閑人は初夏をニユーポートに消し、後山間の探賞に行くを粹の極として居る富豪の別莊や

氣のきいた貸家などが一面に竝んで居て、水浴をする濱邊には例によつて日本人の茶店などがある。氣候の劇變がなくて風光明媚で、金さへあれば愉快な處かも知れぬが、ニユーポート季節といふ交際の一中心だと思ふと、日本人は滿足して永く逗留する氣がなくなる。馬車や自働車で涼む人や、晩餐會舞踏などに忙しい士女を羨みも非難しもせぬが、自然を樂む風流趣味が乏しいやうで氣の毒に思はれる。

△米國の文明には感心の出來ぬ點も段々あるが、牛馬の立派な事は實に世界に誇るべき大勝利だと思ふ。女小供でも馬を馭し牛を逐つて居る。馬は嚙むもの蹴るもの、牛は突くもの犬は吠わつくものといふ風に、彼等を猛獸に近いものとして取扱はねばならぬといふは、抑も人間に應揚な親切な心が缺けて居るからだ。日本でも鼠は福神の使者で目出度いもの、穀類などを十分に與へるから彼等も獰猛でなくなる。西洋では、鼠を恐れて非常に憎むから、鼠の方でも寢て居る女の髮を喰ひ切つたり赤ン坊の指を嚙んだりする。鼠をこわがる西洋人が我等に馬鹿らしく見ゆる如く、家畜を猛獸扱ひする日本人も西洋人には馬鹿らしく見ゆるであらう。これは前置きの方が長くなつたが。實はニユーポートの蠅に感服した笑話があるのだ。毎日食事に行つた家の蠅がどれも〳〵非常に馴れて居て、卓上にとまつて居るのが追つても急に逃げぬ。其

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

處で考へたのは、人間が鷹揚なら德が蠅にまで及ぶものか、動物愛護の精神いよ〳〵發揮せざる可らずだと。二三日たつてから人に話して見ると、何蠅取毒を嘗めさせられたのが腰を抜かして居たのだとさ！

△今度は更に北の方ニューハンプシャ州の湖水地方に避暑した。合衆國とカナダとの間に大き湖水のある處は西大陸の湖水地で、ニューハンプシャのは新英州での湖水地だ。北へ行く程山高く氣清く、而して湖水が多くなつて來る。予の行つたのはまだ取つ着きの方ではあるが、アスクワム湖と云つて中々大きく、島も幾つかあるし、避暑地が周圍各處にある。小蒸汽船で横ぎつて、深港といふ處の野營的部落に着いた。今日も爰へ來る汽車の中を見ると、大抵皆避暑行きの人としか見ねぬが、女と小供が多くて男は極めて稀だ。男子は市中で夏の盛りにも働いて、家族を涼しい處で保養させる。誠に美風ではあるが又米國家庭の亂るゝ元でもある。夫婦共稼ぎは貧乏人が餘儀なくする事で、全體婦人に働かせるは男子の恥。妻を遊ばせて置けるだけの財力なきものは結婚せぬ。これが大弊害の種である。それから資力あつて妻帯する者も、前述の如く多くは妻子だけに避暑させるか、さなくば時々週末に田舍へ行くに過ぎない。子供でもなければ無事に苦むから、妻女は又避寒にも出かける、出先きで社交に我を忘れる。夫は家に歸つても面白くないからクラブに行く、女の友だちでも連れて芝居へ行く。かくて夫妻共に往々道ならぬ道に踏み迷ふのである。

△此日の汽車の中で一つ愉快な經驗をした。或るステーションで三人づれの一行が乘車した。纏まつた空席がないので、母なる人が通路を隔てゝ右側にすわる、三四歳の小娘が左側で其又左に予が居る、お守りの女が娘の差向ひにこちら向いてすわつた。暫くすると娘の機嫌が美しくなくなつて來た。お守と頻りに囁き合つた、又母親にも交渉があつたが一向に天氣回復の様子がなく、果てはシク〳〵泣き出した。初めは更に氣づかなんだが、もしやお守りと遊んで居たいといふのではないかと勘づいて、小さな耳に訴へ

て見たら早速うなづいた。お守りと席を交換してやると、親も子もお附きもお禮をいふ、愛らしい頬の泪が乾いて靨が現はれて來た。自分の氣の付きやうの遲きを恥づると共に、小女の謹みありダ、コネぬ躾けに感じた。小供が親の權力訓練に服從せぬやうになつたのは、近來世界共通の惡風で、米國は殊に甚しいと聞いて居たが、まだ〳〵家庭の美風が全く地に落ちては居ないと心強く思うた。

△扨予の落着いた先きはベイコン孃の避暑地であつた。孃は大山公爵夫人などの舊友で、華族女學校に敎師となり、日本の婦女に關する著述で世に知られ、津田梅子孃の敎育事業をも永く手助けした人である。イエール大學所在地ニユーヘーヴン市の舊家で學者を多く出した一族である。處で避暑地が交際社會と化して、本當の保養も單純な生活も出來ぬ流行を慨して、ベイコン孃は自ら一流の避暑部落を起したのである。自用の野菜を作るだけの畠を所有し、冬は番人に畠や馬や犬の世話をさせ、夏になると五月から九月まで自分で來て住まう。友人中の氣心の分つた人々五十人內外と、自然生活を共にする設備が出來て居る。共同居間といふ大きな室が中央にあつて、其の左右と二階とに小さい部屋がいくつもある。又二三軒獨立の小さい家もある。別に一軒大食堂がある。いづれも樹の根岩角を土臺にし、湖水に臨み樹木の間に建てた小屋で、外に此處彼處と天幕を張つて一家族や一二人の寢起きに用ゐるのもある。一切無禮講で、食堂に出る時も運動の時も同じ服裝、襟がなくとも構はず、水泳靴でも宜しいといふ風。晝は各々自由に讀書したり、運動したり、夜になると共同居間に集まつて一家團欒をやる。ベイコン氏が主婦で一二の書記を使つて、下男下女は悉く南方から黑人を呼ぶのである。これは氏が黑人の敎育事業に肩を入れて居るからの事である。而して此一大家族は皆敎育品格のある人であるから、無禮講も決して亂に至らず、毎土曜日には文學會も行はれる。會の名をバーク、エンド、バイトと云つて、犬のやうに吠えて嚙みつくと聞かせつゝ、實は小舟のバークに乘つて小さい入江のバイトを向ふへ渡つて、岩の上で枯木の火を焚いて、木の根に腰かけて夕食をして、それから其日の午後までに集まつた詩文の投書を、主婦が焚火の光で朗讀するのだ。日曜には近村の會堂へも行かれるが、小さい島に丸太で腰掛を作つた、屋根も壁もない會堂で禮拜をする方が身にしみて深い感動を與へた。

△當時ブリンモア女子大學に留學中であつた、今は伏見宮博恭王妃殿下の隨員として、歐米漫遊から歸路に向つて居る、鈴木歌子氏に初めて會つたのも此場所であつた。茲からは程遠からぬ、同じ州のポーツマスで、日露媾和談判の進行するの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を氣遣ひつゝ待つて居たのも、此ベーコン孃の避暑地であつた。いよ〳〵媾和條件が發表されて、人に慰めらるゝも面ぶせのやうに感じたのも矢張り爰であつた。爾來殆んど五年を海外に過ごして、世界の大勢も少しは分つて來た。あれ程不評判であつた媾和條件について、一言の辯解も言譯もせず、世人が何時か自ら悟るかどうか、夫さへ敢て問はぬらしい小村伯の武士的態度には私に敬服して居る。

（六月十五日紐育にて）

記者曰、本編は夏期號にとて送つて下されたのですが、其間に合ひませんでしたので本號に掲ける事に致しました。尚ほ引き續き御執筆下さる筈で御座いますから、内ヶ崎氏の行當りばつたり集と共に本誌に一大光彩を添へる事と存じます。

登美ちやんの日記

有馬憐花

四月十五日、妾達の學校は毎年此の十五日が始業式と定められて御座いますの、櫻は今が眞盛の時は卯月の半でせう。そして天氣は朧の花曇で昨日の冬に目新しい若草の匂ひ、小女心にも自然は頼しいもの慕しいものだといふ感が御頭の奥からともなく、御腹の底からともなく、引切りなしに出て參りますので、未だ午前五時のお床の中から、今日一日の面白さが絲を繰出す樣に環の輪の樣にクルクルクルと順序正しく日頃の惱を慰めて呉ます。

二十年前の今日を紀念の開校日、それを忘れぬ爲めの今日の始業式、千里の道も先づ一歩よりといふ諺で誡められ、敎へられた學生の數は幾何でせう。今日も校長先生から相變らずの御説明がありました。妾達は此の三年間を毎年、同じ敎へで導れて居ります。其度毎に恩野先生の偉大な感化力と御熱心と御指導とを感謝しない譯には參りませぬ。學校全體の御仲間は勿論、既に御卒業なさいました先輩姉方も只此日一日が命の洗濯日だと仰しやいまして申合せました樣に皆樣が御集りになりましてはホンの昔ながらの子供心、何彼と御骨折を下さいましては一家團欒の喜び、學校の紀念日と申すよりも寧ろ恩野先生への報恩日だと申した方が相應はしいかと存じます。

學校の内外は五色の旗、萬國旗、ヒラヒラヒラ、オルガンの音は飴屋の笛に変り、唱歌の聲は折柄の落花に戯れ、恩野先生の挨拶は講堂を濕らせました。誠は鬼神をも動かすとか申しますが妾はあの時の心持で始終居たいと念ひます。二十年前の今日は恩野先生が此の學校での誕生日だと承はりましては言ひ知らぬ念に打れました。子を思ふ親心にも勝した師の

君の御恩、子程に師の君を思ひ參らする同窓幾千の眞情、暖い空氣が講堂を埋めた時、軒の雀と小使室の鶯とが鳴きました。

十六日、昨日の紀念日を無事に過した妾達は今日から新學年の課程を修めねばなりませぬ。最初の一時間目が恩野先生の國語、先生は平常より含笑づいて戸口の戸をソットと御開になりまして滑る樣な足を敎壇にお運になりますと直ぐ、『皆樣、妾は又今年も皆樣を皆樣と呼び得ることを幸福に存します。何時もながら申上る事では御座ますが、苦は樂の種とか申しまして人間は若い内に苦む方がお藥になります。力るに勝した喜びはありますまい、稅所敦子と仰る方の歌に、

霜を經て匂はざりせば百草の上には立たじ白菊の花。

とあります。又二宮尊德翁の歌に、

日び日びに積る心の塵芥、洗ひ清めて我れを尋ねむ。

是は自省といふ心で己に缺點なきやと我れと我が心を省る事であります。斯樣に御敎へ申したとて皆樣が御實行になりませぬと島津忠良と仰る方の、

古の道を聞いても唱ても我行ひにせずは甲斐なし。

と申す事になりますから、

明日ありと思ふ心の仇櫻夜半に嵐の吹かぬものかは。

此の心を心として皆樣、御一共に勤め樣では御座いませぬか』

と御話を止めてソット妾達の方を御覽なすつた時の御目の潤み、それから又言葉をお續けになりまして『兎に角此の二十年といふ永い年月を此の學校で送らして戴いた事を妾は大な名譽と心得ます、その名譽に泣く妾、其の好意に報いないで居られませうか』と。

十七日、宵の寢覺が惡かつたので未だほの闇のに起出た妾、裏の畠を一回、小川の堤を鎭守の森へと行きますと、神樣に兩手を合せて頻りと拜んで居る子供があります。花の吹雪が散り初めた神の御庭、未だ明烏も足跡をつけないのに逆八に踏んだ優の足型、ヤレ感心なと暫じ控へて居りますと、軈て立上つて歸路に著た子供、何所の子供か賴しいとよくよく見ますと、是はまがふ方なき恩野先生が拾取つて養育して居らつしやる孤兒の吉ちやん、『吉ちやん……お感心ね……此の早いのに……先生は未だお寢てて……』と聞きますと、『先生はね……お具合が……』と言ひさして飛ぶが樣……ハッと胸にこたへた妾、其の神詣の意味は分りましたが、夫にしても一昨日といひ昨日といひ御達者相に見受申したものを夢か現か幻か、否な僞言であれがしと妾は願ひました。吉ちやんの姿の見ゑ隱れを妾は後追かけて。

十八日、昨日風邪の加減でといつて缺勤の先生は今日もお見ゑになりませぬ。二十年來殆ど無缺勤の先生が二日のお休

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

み、憂の色が銘々の顔に現はれました。

十九日、外の課業は何も手につきませぬ。放課後から級全體で今日も見舞に參りますと、痩せたお顔が一層際立つて、束髪の放毛が半面を埋めて物凄き計りです。力のない手で此をかき上げて敎子の訪れに滿足の色を現はされた先生は、只熱い涙を流さるるのみであります。

二十日、學校宛で參りました封書、これは恩野先生が醫師の勸めによりて急に房州の海岸に轉地遊ばすといふ報知、病氣は遂に師弟の間の隔に造りました。

二十一日、諸業無常の鐘の音は生者必滅の理を現はすのでせうか、時めいた櫻も夜半の嵐に散りを急ぎ、小糠交の雨の足は落花を只踏つけに降る。

二十二日　房州の地に向けて手紙を出す。

二十三日、一日待ち暮せど返書なし。

二十四日　今日も駄目

◎　◎　◎　◎　◎　◎

五月一日、其後幾度となく御見舞狀を差上ましたが何の返事もありませぬ。名には聞く房州の海岸、其海岸の景色、其漫歩き、心盡せる吉ちやんの看病、千鳥鳴く音に波の聲、醫者の藥に勝る事は萬々でせう。と思つて居りますと配達が見ゑました、若やと敎員室の側まで行きますと恩野先生から手紙が參りましたと地理の先生の御話。偖はと胸が一時に高まりましたが少しはお宜しいといふお言葉にホッと一息入れました。

二日、昨日の音信に引かへて今日は危篤の電報、校内愁雲にとざさる。

三日、急を聞いて出發せられた校長先生から早速病狀を知らせて下さいました『病は肺で吐血甚だし全快或は覺束ならむ』とありますので、慈母に別るる憂を一人泣き暮し泣き明しました。

五日、烏鳴く音に南を懷ふ。

六日、終日終夜、涙又涙。

七日、電報、萬事窮す。

八日、遺骸著く。

十日、花に病を得て青葉に轉地せられた先生は、哀れ四十歲を一期とせられて菖蒲咲く五月の七日遂に不歸の客となられました。今日は先生の德を末永く傳へる爲に村民殘りなくが喪主となつて村葬にする事となりました。それにしても先生の德は永く殘りませうが、同窓全體の涙は乾く時がありますまい。ああ彼の態度、あの御訓言、情に滿ちたあの御面影、ああ、今日から後、山時鳥が來て鳴かねば宜しいが。

自然と小供

海老名みや

△子女教育に對する母の務（其八）

▽私は住食衣と申したい

あや子が五つ六つの比『母樣お玄關の前に椿の花が嬉しさうに咲てますよ』とかけこんでまゐりましたので、行て見ますと成程乙女椿が他の堅い蕾の中に、たつた一輪滴たらんばかり露を含んで咲て居ました。無邪氣な曇りのない子供心には嬉しさうに花が笑てると映るのでしやう。どの子でありましたか、五月雨の晴れ間に庭の梅の實を長い竿をもつてたゝいて落して居ますのを側で見て居て、あれ可愛さうに、梅が痛いでしやう』。ばら〳〵とこ露がぼれますと『痛いから哭くんでしやう』とさも〳〵同情に堪へない風情をして梅の木を見上げました。つひ二三日前も子供が猫とお話をして居ます何を云てるかと思つてそうつと聞いて居ますと『チョンヤ（猫の名）五に二たすと幾つ？七つといつて御覽。コレ七つとおいひ。何故言いないの』と切りに敎へて居ます。猫をお友達として、我仲間として取扱つてる處可愛いではありませぬか。子供の前には花も木も動物も飛んではねて物言うて居りますこのやうに己れと自然とを殆ど同一視して居る子供に取りては、其精神發達の上に、又は其肉體發育の上に自然が大なる關係のある事は申までもなからうと思ひます。それで私共は衣食住の中で最も自然といふものゝ味はれる機會の多い住といふ事に最も注意を致ねばならないと思ひます。世の中では一般に衣食住と申まして衣に最も重きを置きます。又近頃物の分つた方々の中には之れは食住衣で、人は滋養物を澤山食べて、なんでも身體を丈夫にする樣に食に最も注意をしなければならないとお仰しやる方々も大分澤山あるやうでご

ざいますが、私は決してこれには反對だといふではありませぬが、健康の上から申ても住食衣といふ順序でなければならぬと思ひます。これは私の長年の考でありまして、少しは不便を感じても子供等の爲に紅塵を離れた場末に、幾らか庭もあり畑もあるといふ樣な處に住まつて出來る丈自然に接近せしめて田園趣味を與へたいと願つて居りましたが、幸ひ現今の住宅に多少其希望を實現する事が出來ますので、言ひ難い樂しみをもつのであります。又種々實驗して見て益々其事のよろしい事を感じます。

▽百坪ばかりの畑地から

宅の裏に百坪ばかりの空地があります。場末とは申せ地代の高い住ひに百坪の空地を其まゝにして置くは不經濟な話の樣ですが、その百坪の畑の中には柿の木あり、無花果あり、お茶あり、桑あり、お芋、じやがいも、大根、茄子、胡瓜、いちご、いんげん豆、牛蒡、人參と、色々のものが雜居して居ます。此處からして子供等も大人にも種々の興味と、樣々の知識と、美しい感想と、新鮮の空氣とを與へる事は、決して、少々ではありませぬ。試みにこの例をあげて見ましやう畑の拾株あまりのお茶は年々歲々新芽を出して、四五月比にはそれを摘み取り、小さなセイロで蒸し、鷄卵箱の底をぬきそれを紙ではつて助炭をこしらへ、火鉢にかけて蒸した茶の葉をもみます。氣長にもんで居ますに段々乾燥して來てお茶になります。初めは折れ釘の樣なのや、玉の樣なものが出來ましたが、段々上手になりまして、近頃は仲々よいのが出來ます。かくして大抵四五斤のお茶がとれますので、親睦會や婦人會の時皆さんに之れは手製のお茶ですと自慢してお上げ申事が出來ます、皆さんもおいしいと言つて召上つて下さいます。お金で買へば僅かのものですけれども、其興味はとても金では買へませぬ。又子供等にお茶と云ふものはこんな眞似をしてこしらへるものだと、不完全ながら知らしめる事が出來ます。

▽養蠶の眞似事

又廿本ばかりの桑の木がありますが、追々成長しまして今年は一斗ばかりのまゆがとれました、この養蠶の眞似事は、お茶處でない深い興味を子供等に與へます。前年蛾が產みつけた卵からして、眞つ黑な毛髮を切つた樣なものが、うじや〱と產れて來ます、それを鳥の羽で掃き落して、細かにきざ

桑をやつて居ます中に、追々頭が白くなつて來て、日に〳〵大きくなります。五六日もしますと初眠に就きまして、一晝夜あまりにして、すつかり其衣を脱ぎ捨てゝ仕まひます それから復び活動を初めて盛んに桑を食べます。この樣にして二眠三眠四眠と發育して參りまして、毛髮の樣であつたものが、終には大人の小指大の大蟲になりまして、全く食べ終つて上簇致します。サア之からが又面白ふござひます。マブシと申て藁を幾つにも折て、うね〳〵をこしらへたものゝ中に入て置きますと、この藁からかの藁へおのが口から絲を出してかけはじめます、その中に何時の間にか小さな俵の形の繭が出來ます、その中に這入て右から左上から下と萬遍なく絲をかけて五六日にして全く作り上げて仕まひます、そこで我事終れりといふ有樣で、其中にサナギと變じて幾日かを休みます。其光澤あり幾百幾千のまゆを藁からはづしまして籠に幷べますと、それは〳〵きれいなもので如何な蟲嫌ひな方でも、マアきれいだと云つて手に取て御覽になります。これにて止まりませぬまだ〳〵珍らしい事が出來ます。私は子供等に

此繭から幾千尺の絲がころ、、〳〵、、とほごれて生絲になるのを如何かして見せてやり度と思ひまして、座繰とかいふ製絲の器械があつたらばと搜しても此邊にそんなものが有らう筈もありませぬ。其處でまだ私の幼少の頃手取とか申て指にからん、、でワクに絲を巻附けて取るのを見た事がありますから、それを夢の樣な記憶から呼起して辿り〳〵やつて見ましたら不思儀にも見事な生絲が出來ました。子供等の喜びは大變なものでありました。そしてまだ珍らしい事があります。このまゆの幾つかを絲にしないで取つて置きますと、此美麗な家の中に、永久の休みに入つたかと思はれた蟲は、舊の姿に似ても似つかぬ蛾となつて、自ら繭を破つて出て參ります。何んと云ふ不思儀ではありませぬか、此蛾が卵を產んで、全く其務を果して、絶命いたしますまで、幾回の變化は皆な想像以上の事ばかりです。これを見ては大人も子供も造化の妙技を感嘆せずにはゐられませぬ。自分たちの着物の中で最も美しいと思ふ縮緬や羽二重は蠶から出來るのだと只お話を聽きまし

ても、蟲が如何して縮緬となるやらんと想像が付きませぬが此道行を一通り見ますと判然と呑み込めます。斯して織物にして、又生絲の儘で、外國に輸出すると、外國からお金が日本にはいつて、國が富むといふ様な事も、聊か頭にはいつて生絲や織物といふ事を聞く時に、馬耳東風でき〻流さず、直に國産とか國家經濟とかいふ事におぼろげながら、思ひ及ぼす様になるだらうと思ひます、蠶の蟲の中で少し弱つたのや發育不養で小さいのが居りますと、それを撰り出して、小さな箱にいれて、病院だと申ていたはります。これも子供に憐みの情を深くする一助となりまして善い事だと思ひます。

▽僅の事で親の心もケチになる

斯くして限りない興味の中に種々雜多の事を知らず〳〵の中に學び得るのであります。『こゝは三俣三國の三宿米のなる木をまだ知らぬ』とかいふ俗謠があるさうですが、三國峠の山奥ばかりでなく江戸の眞中に生れて育つた者で米のなる木を知らないものが澤山あります。現に宅の子供が『どふすれば麥がお米になるんですか』と尋ねました、麥は麥お米はお米だと申て聞せましても一寸分りませぬ。麥をどふにか製するとお米になる様に考へるのだと見えます。下町に長らく住つた人が山の手に引越して來まして大根や牛蒡が畑にあるのを見ても何が何やら少しも分りませぬ。其人達は青物屋に飾られた大根は知つて居ますけれども、畑の大根は知りませぬ。處がわづか六七坪の處でも其時機々々に無駄のない様に植ますと隨分澤山のものが出來ます。九月十月の頃には赤茄子や無果花が熟します。十一月は柿のさかりで赤く色付た處に夕日が映る美しさはさながら山里に在る心地が致します。數本の木に枝も撓ゆげになります時は、來る方〳〵に惜しげもなく取つて差しあげられます。取り立ての柿の味を知つては店晒しの柿を食べる氣にはなれませぬ。けれども内になければ止を得ずお客様に上る爲には又水菓子屋に馳けつけて七つか十の柿を買つて來なければなりませぬ。そうして大切そうにむいて居ますと子供達は欲さうな顔をして側で見て居ます。けれども折角買つて來た大事の柿を大勢の子供等に與へましたらお客様の分がなくなりますから、マアお前方は辛抱しておいで、いまに買つて上るよと云つてなだめるより外ありませぬ。僅の事で親の心もケチになり子供の心も卑しつぽくなつて忌な思ひをしなければなりませぬ。これに反して房々となつてる木から惜げもなく捥つてお客に進めますと、進められたお客も如何なにか心よく召し上ります。子供等も常に充ち足りて居ますから、幾ら人様に上げましても指を喰へる事はありませぬ、寧ろ自分等が先に立つてもつと〳〵いつ

て上げます。其氣持の豐かで溫な事、なんと心地よいではありませぬか。

▽大樣にゆつたりと育てたいもの

實に天然は豐かであります。齷齪たる世俗を脱れるには天然に接する程よいものはありませぬ。子供等にも出來る丈多く此天然に接する機會を與へ度ものです。子供は眞に此天然を愛します。今筆を擱いて數へて見ましたら僅か二百坪ばかりの屋敷に三十種の木と三十種の花と二十幾種の野菜があります、本年六歲の男兒は殆どこれ等の木や花や野菜の名を覺えて居ます。其智識ばかりでも無駄ではありませぬが知らず識らずの間に之等のものより受る感化は大したものだと思ひます。若し本式に園藝に心がけましたら、まだ〳〵何十種の花も植ゑられましやう、種々の果物も栽培致されましやう。其外に養鷄養蜂と樣々面白い事が出來やうと思ひます。ことわざ繁き世に立交りて育つ子供は、ともすればませくれて早くも世の憂き節を知るやうになります。斯くては其子の成長も先づそれ迄で小さく形を造つて仕舞ます。形を成さない出來損ないよりはようございますが、願はくは大樣にゆつたりと育て度ものです。それには可成天然に親ませるのが肝腎だと思ひます。そこで此住と云ふ事に最も重きを置く樣にしたいといふ事になります。尤それは御銘々の御都合で一寸の隙もない家と家と込み合つた中にお住にならなければならない方もありましやうが、これらのお方にはお休みの日は可成お子樣方を靜かな公園か植物園の樣な處におつれになる事をお勸め致します。折々の此變化は平常馴れてるものに勝りて尙著しい効がある事と存じます。山の手にお住ひの方なれば三十坪や五十坪のお庭に必ずおありになる事と存じます。其三十坪でも隨分面白い事が出來やうと思ひます。どんなに食物が大事だと申ましても雜沓の中にあつて齷齪しながら不潔な空氣を吸つて居ては、腸胃の活動が鈍れて居ますから迚も充分の滋養をとる事は出來ませぬ。御都合の出來るお方は可成雜沓を離れた處にお住ひになる事をお勸め致します。

ハープスウェルの夏

谷津直秀

北米メーン州パープスウェルといふのはボストンの北百五十哩のポートランドから海上十六哩程北にある三十軒許の小漁村の名である。夏の避暑地としては極めて繁華といふ程ではないが、松の有名な處で風光明媚誠に俗腸を洗ふに足るものがある。キヤスコ灣前に開けて、三百六十五の小島（實は

二百位しかない）が一面に散布しをてつて、其間を汽船ややヤットが點々縫つて行き通つて居る景色は實に絶景と云はざるを得ない。半島の岬に臨海實驗處があつて、僕は其處で研究に從事しておつた事がある。其時の御話をして見やう。

一體この村はイセエビに似たロフスターと云ふエビを獲つて生活して居る漁夫が多く、それに百姓と遠洋航海に老いた船長などが住んで居る、素朴な簡易な生活をして居る連中で從つて又氣風も敦篤で甚だ愛す可き人達である。それで私の仕事は實驗處に行つて、ゴムの長靴をはいて汐干のとき（此處は汐干で有名なる處で一丈五尺も引く）熊手で泥を掘つて一尺程のムシをとつて其を研究するのである。あるとき僕の仕事を了解しない同情の深い老嫗に「遙々日本から來てまあ一日幾らになりますか」などの言葉をかけられたこともあつた。飯はホテルに出掛けて食ふ宿は百姓屋の二階を借りて居つた。每年續けて行つて同じ室に生活して居たので、僕の室はジャップスルームといふ名で村民に知られて居つた。

面白いのは日曜日で、朝はゾロ〳〵打ち連れて敎會に行く敎會は二つあつて一はメソヂスト、少し先のはバプチストである。ある日曜日に來遊の科學者兼宗敎家で有名なるノースライス敎授を村の敎會が招待して說敎を依賴した事があつたが、中々面白い現象だと思つた。

歸つて來ると丁度晝飯になる。村から半みち程あるが、此間が何とも云へぬ美しさである、綠滴らむ許りの原の中を道がうねつてゐて、右を見ても左を見ても深碧の海が渺然として擴がつて居る、其間村人の家がポツ〳〵と點綴して一段の風致を加へておる、此道の散策は實に忘れられぬものゝ一である。

晚には食後オーバンコロニーといふ所の共同の食堂に行つて、閑話や讃美歌に愉快な時を送るのである。ホールは二つあつて避暑期は何れも中々繁昌である。センテニアルホールは敎會の側にある大なる建物で獨立百年祭に建築したホールである。夏には敎會のフェヤや音樂會が開ける。また他のホールの一部では球ころがし（獨逸のクーゲル、ウント、ケーゲル）をやつて遊んでをる。土曜日の晚には村中の音樂家（？）が集つて來て、水夫のこしらえたフイッドラーに連れて、舞踊が始まるといふ騷ぎである。又ある時は「世界一の幻燈」などが廻つて來て、非常な大きな廣告をするから行つてみると、風呂敷位の幻燈で市よりの見物人を驚かせる、避暑中タレンツか音樂をやるかと思へば、はなし家も來るし、かうしてお互に賑かに愉快に夏を送るのである。

最も愉快であつた事は實驗處に關係の人だけでのピクニッタである。年齡は十代より六十五六まで二十人位のこともあ

つた。海に面した森の中に辨當持參で出かけて午後を心存分遊び暮らすのである、あるとき途中に大きな西瓜を二つ持たせられて大分閉口した事もあつた。前以てエビを買つて石の上で叩いて肉を出して罎詰にして持參し、松の實の打ち合ひをやつたり、松のヤニを脊につけたり、鹽をコーヒーに入れたなどの失策をやつた、森の中には粗末なテーブルが置いてあり其上で海岸から平な石を取つて來て皿にして食物をとり分ける。日が暮れると、ボーンフアイヤー（たき火）をする、其周圍を廻つてカレッヂサンダを大聲で怒鳴り、マシユマローを棒の尖につけて燒いて食べたりして淤深い原を眞暗で燈臺の火をたどつて歸つてくる。

又の樂しみはベリーを摘みに行く事があつた。之には色々の種類があるが、日本の富士のハヤナシの類である。此邊一面は草花の原で、蘭やあやめやオミナヘシが其艶を競つて其美しさは餘程アルプス的である。

テント生活も忘られぬ一の紀念である、之は實驗處に來ゐた助敎授と共に住んでおつた。上は二重になつておるから大丈夫雨は漏らない。下は板敷で粗末なテーブルとベットが置いてある。早朝に起きて瓶を持つて百姓家迄牛乳を買ひに行く、森の中で色々の小鳥や栗鼠がチヨロ〳〵と遊んで居るのが見える。其路をミルタウエーと綽名した。そして手料理を作つて食ふのであるが、僕の得意とする處はシユワイツの老媼からの傳法でブレッド、オムレツである。水が不足なので食物は、前に食つた物さへ分つてる時は洗はずに使ふ規約だつた、夜は小說などを讀み合つたり四方山の議論などして時を暮した。（談話筆記）

二通の結婚祝賀狀

▽一は海老名先生
▽一は海軍の愛友

聖山生

家庭と云ふものを持つ事となつて、不恙ながら主人顏をして暮す身となつた。人もそうか知らぬが、自分は日陰から日向に出たやうな、內海から外洋に出たやうな心がした。同時にそれだけ自身に對しても人に對しても義務の念が加はり、內に向つても世に向つても責任の重みが加はるを覺えて「己でもやつて行けるだらうか」と思はざるを得なかつた。當座數日は來客やら、お禮まわりやらでづん〳〵暮れて仕舞ふ。總じて嬉しいのは違ひないが、モット知識も信仰も一人前、否他人に厄介にならぬやうになつてからと思へる予には、中々に新生涯に入るの覺悟なんぞ立派に出來やう筈なく、之れで

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界第壹卷
新人第拾卷 合本

裝釘堅牢優美永久保存に絶好也

定價

新女界 七拾五錢
新人 壹圓貳拾五錢
(郵税共)

日本輸入品に限り包裝紙に斜に「アイボリー石鹼」と記入し一見模造惡質石鹼と判別に容易ならしむ

御購求の節「アイボリー石鹼」に御注意を乞ふ

女子音樂園 生徒募集

(一)音樂科

ピアノ科 オルガン科
ヴァイオリン科 琴科
唱歌及び樂理科

●右は一科以上幾科でも兼修が出來る
●初學者こ否こを問はず、いつでも入學が出來る
●普通科、受驗科、高等科等にも補缺入學を許す

(二)繪畫科

日本畫科 顧問 川端玉章
同 荒木寛畝
同 川合玉堂
塗板畫科 講師 川村東陽

●初學者と否こを問はずいつでも入學が出來る

(三)割烹科

西洋料理 學習院女學部講師 和久井淺之助
日本料理 同 三枝富吉

詳細の事は申込次第規則書を送ります

東京下澁谷女子音樂園
(青山電車終點より直に左折約五丁)

婦人界に於ける新智識の涵養を努むは本講義也

女子大學講義

日本女子大學校
櫻楓會編輯

本講義の内容を讀め

御申込次第規則書進呈

▲實踐倫理 人生の眞相倫理の原則を初め婦人が生活の目的及處世の覺悟玆に修養の方針を指示する羅針盤也

▲教育學 日常の自修と家庭教育に切要のものを實用的に講し學校教師にのみ必要とする狭義のものにあらず

▲心理學 精神生活の法則樣式を講ずる教育學の基礎科學にて自修上交際上、及び社會學の參考學科たり

▲家庭物理 家庭生活、殊に料理洗濯衞生等の方向につき知らざる可からざる一般の學理を平易に講述せるもの

▲生理學 婦人には殊に必要なる衣食住に就き研究を講じ尙衞生、教育心理家事料理等の基礎科學たるなり

▲經濟學 吾國の婦人には最も缺乏せる所にして然かも今後の社會に立ち家政を整理するに甚だ必要のもの也

▲文學研究 趣味を養ひ感情を美くしく品性を高め生活を高尙にする爲殊に子女の家庭敎育上に必要の物を講ず

▲農藝 簡單なる蔬菜果樹花卉の栽培牧畜等を説く之れ家庭生活の趣味と實益を併せ自然の研究の一助たり

▲和歌作法 初學の作歌心得古歌の講話等を掲げ會員の詠草は添削し其優美なるものは之を雜誌に掲ぐべし

▲家事 最も進歩せる諸學説を參酌し實際的に組立てられたる須要學科にして料理裁縫と共に櫻楓會にて調査研究せる者

其他應用兒童研究、衞生學、法制大要、應用社會學、料理、裁縫、科外講話等何れも必要の學科也

發行所 東京小石川區久堅町百八 精美堂 振替口座二八參八

予の青年時代は終つた。あの時からうして置けばよかつたとかあゝやつて來る所ろであつたとか、恰も一度讀んだ傳記を讀みなほすやうな事を思ふのであつた。そうして將來に向つては稍もすればだらうかといふ尾語がつかひたくなる。そうすると心の一方から負け惜み的の或ものが「己だつて……」と蠻音を揮つて、次に又他の或るものが祈禱をするといふことになるのであつた。諸方から手紙や繪葉書が來る、何れも嬉しからう、樂しからうの定文句。喜びを云はれるのは勿論嬉しいには違ひないが、予の心に、嬉しい、樂しい以上の或るものを與へるものはなかつた。そうして來るだけの處からは來てしまつた。もう此方から斯々だから喜んでくれと云はなければよこさない知已ばかりになつて仕舞つた。ところが最後に二つの手紙が來た。一つは我等の敬慕する海老名先生からで、他の一つは今軍艦春日に乘つて居る一愛友からである。

先生よりの御手紙は

過日は目出度華燭の禮を擧げられ、遙かに御祝ひ申上候。

今日此頃は新なる御家庭の實驗よりして、天地も爲めに新なる御感想よどみなく發し候御事と乍陰御喜び申上候。

今更復々教訓がましく申上候なれども、全く新なる生涯に入るときは、必ず向上の大轉化となさねばならず候。茲に於て新家庭の意味一入深く相成り申べく候。從前は一人の力なりしも、此後は二人前の合力と相成可申、過去の不可能も現在となりては可能と相變り可申、此邊の消息、最早理論にあらずして御實驗と相成たるを 奉 遙察候。先は御祝まで草々　敬具

拔き見て何時もながら先生の御愛心に感激すると共に自ら顧みて心恥かしく思はざるを得なかつた。嗚呼、向上の一大轉化。我に之れありや。過去の不可能も現在に於ては可能。我に之れありや。斯く思ふや、予は再び向上の一大轉化、過去の不可能も現在となりては可能と叫ばざるを得なかつた。之れだ、新生涯に入るの決心は、二人前の合力である。だらうかでない、であるである。予は覺えず神に感謝を捧げざるを得なかつた。

他の一つはかうである

大きなエンヴエロープは結婚用のみと心得て居る僕は、御手紙を手にして夫れと直覺した、披いて見れば案の定。新夫人はまだお目にはかゝらぬがお話には聞いて居つた人。細々と承はり愛兄の御滿足察するに餘る。定めし御樂しき極みならむ。今晩之から愛兄姉の新しき家庭のためにハンモックの上でお祈りします、祝福あれと。

實に僕にも話があります、それは婚約です。これには實は僕もいろ／＼考へましたが、御承知の通り、僕は父もなく

母もなき孤兒、表面は日本一の陽氣な男と何處に往つても評判なれど、一人淋しく過去將來を思へば、そゞろに心細く感じ、第二の母たる人を想像することも少からず。斯る境遇の僕に、緣家で、立派なクリスチヤン、ホームで、お負けに主人なく詫しくも五人の子女を敎育しつゝある未亡人の所から理義を說いての希望には僕も決行せずには居られなかつた。今僕は神と此第二の母に護られる幸福の身となつて居ります。母は大體に於て安心して居るが、勤めの上に間違ひのないやうにしてくれよ。內では今は何事も消極的保守的にせねばならぬけれども、他日、其許歸宅して久しく消極的な家業を積極的にしてくれる日を樂しみに待つて居る。信者の其許に申すまでもなきことながら、惡友と交らぬやう、いつも其許には重任のあるを忘れず、身を大切にして、怪我過失なきやうに、風を引かぬやうに、亂れ食ひをせぬやうにせよ。夜の九時になれば「けふもおくりぬ」の讃美歌を歌ひなさい。母も皆と其時刻には同じ歌をうたひ、祈禱をしますからと云つて來ます。僕は眞心から愛してくれる人は皆基督のよき僕にして、夫れが卽ち基督が人を通して愛して下さるのだと思ひ、之は母を通して現はるゝ基督に愛であると信じて感謝にたえません(中略)僕は九年の後○○敎會で結婚しようと思つて居ります。其時は新郎が三十二歲、新婦が二十歲です。其時の牧師は愛兄に今より願つておく。其頃は愛兄には一角の牧師となられ、今の新夫人も最早キツクリとした母君となれる事なれば、信仰上に又處世上に普通牧師對信徒でなく、肉に於ての兄弟たり姉妹たるの交誼を願ひたいものです。僕は滿期の上は商業に從事します。愛兄が世を醒ますやうな牧師、よき羊牧ひとなられる頃には、僕は小林さんや青木さんの樣な平信徒として金儲をして傳道界に盡したい。願はくは僕の導き者として何時迄も御指導下さい。(下略)

お祝の手紙としては餘りに多く自己を語つて居るが、予は何とも云へぬ快感と感謝とを以て此文をよんだ。彼は父もなく母もなき孤兒である。然しながら五人の姉と二人の兄とは凡て篤信な信者で、彼等は父となり母となつて此最季の弟を愛した事を予は知つてをる、何と美しい話でないか、予は信仰はこゝに至つて初めて尊いと思ふ。

個人より家族に、家族より社會に及ぼして初めて宗敎も有難くなるのである。斯く思ふ時に予は傳道せずしては居られぬ。

此二つの手紙は予の生涯を通して忘られぬものとなつた。

赫耶姫

淺山尙

さらばよ、さらばよ。
われはかへる。
　重がる罪は、今日はてぬ。
伴は百千の天乙女
行くは常世の樂の國。

さはれど、さはれど
われはかなし。
　優しき人の情すてぬ。
馴れて過ぎ來し二十年の、
　これは夢かや、幻かや。

あふるゝよろこび、あふるゝ涙
思を天と地とに馳せて
かへるよ、
かへるよ、
あはれや月姫。

―竹取物語參照―

砂洲越えて

―テニソン―

欽泉生

落日の色うすれても、
宵の星高く我を招けば、
せゝらぎに白き砂洲越えて、
眠れる如き海原へと志す。
然あれ、端しなき淵は故郷、
其處に歸ることそ身の幸なれ。

暮靄掠め來る鐘の音哀れに、
軈ては包まる、夜の幕にか。
其處へと乘出る身ぞ嬉しき、
怖れの哀思露と消えて。

あはれ、潮の勢ひ我を驅りて、
時處の境を越えゆくとても、
砂洲過れば、今目のあたり、
我が「水先」に見ゆる樂し。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私の下女に就ての心得

臺灣　某夫人

一　家族の一人として取扱ふ事

是れまで雇入れましたものは皆多少教育のあるものでしたから仕合でございました。私は家庭を幸福ならしむると否とは其任は一に主婦の肩上にありと確信し、殊に下女に關する責任は全く主婦に存すると思つております、然らば下女の取扱に就て私共主婦は如何なる心掛を要するかと申せば、第一下女をわが家族の一員として精神から彼女の幸福を圖る心得が最も肝要と思ひます。

二　下女を教育する心得

既に相當の順序を經て下女を雇入れ、家族の一人といふことにすれば、唯彼女を使役する許りでなく、たとひ一ヶ月なりと私の家庭に居りし以上は最初參りし時に比し其精神上にも働の上にも、多少發達進歩したる處ある樣に致してやりたいと心掛て居ります。雇人故使役さへすればといふが如く、彼等の上に一片の同情心なきは主婦としては最も恥づべきことの一つと存じて居ります。

三　如何にして教育するか

そんな事はいふべくして行ふべからずと非難する方もありませう、併しこれ決して實行の出來ないことではありません當宅の二人の下女何れも十八九歳の者でありますから、晝と夕との食事前には私が先きに立つて共に働きます。そうして晝の炊事の時間を以て彼等のまゝ教育時と致しております。教育すると申しても何も臺所で行儀よく座り込んで教へる譯ではありません。或は七輪の火をあふぎつゝ或は器具を洗ひつゝ其折々に相當した、極卑近な事柄を以て、色々と私の胸に浮んだ物の道理を語りきかせます。曾て村井玄齋氏が著はされた下女讀本も簡易で有益でありますから、彼等に下讀みをさせ置きどれ丈實地に應用しておるかを試みることもございます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

四　精神敎育を主とす

下女を敎育いたしつゝ召使ふといふは私の主眼でございますから、毎日洗濯、料理、掃除ばかりしておることは、詰まらぬ事といふ感念を持たぬことを能く敎へ込みます。宅の主人が役所へ出て御奉公するも、お前達が日々洗濯や料理や掃除をすることも少しも職業といふ上からは異ひがない。其の根本の心がけ一つにありといふことを[illegible]へ込みます。其れ故、鍋を洗ふにも器具を取扱ふにも誠意をこめ、誰人の前へ差出すも恥かしからぬ樣せねばならぬ、自分の與へられた職分を忠實に竭すは誠に人として尙き仕事であるといふ樣なことを七輪をあふぎつゝ話しますのです。要するに今は修業の時代で、一生涯下女をする譯でないことを意識せしめて自重の心を起さしめ、以て婦人としての將來の準備をなす必要を悟らしむるのであります。隔週日曜日午後、下女のためにひらかるゝキリスト敎の禮拜式に參會せしめて、有益なる講話をうかゞはせ、其夜はこれを覺えておる丈を筆記せしめて私が添削してやります。これが又色々の方面に役に立ち手紙の文も、書方も見る〳〵上達して參ります、洗濯しながら歌ふうたは讚美歌でありますし、惡しき友は一人もありませぬから、いつとなく向上いたしてまゐります。此日は丹精してこしらえた晴着に着かへ、サッパリとしてうれしそうにして出かけてまゐります。始終客の出入の繁しい家ではありますが私自分が禮拜式へ出ますことをかゝさぬ通り、兩人へも同じ心を以て、僅かな差支の故を以て缺席させぬことに致しております。

五　下女に對する言語動作

既に家族の一人を以て遇しますから、小供にも父母に對すると同樣の言葉を用ふべきことを敎へ置き、決して粗暴な物いひ動作のなき樣致しております。而して彼等が土人（臺灣人）なる車夫に對するには又たとへ言語は不通なりとも、輕

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

侮がましき素振を示すことなく、身振を以て其不通を補ふ様固く戒しめておきます。其の結果は一朝一夕に擧ぐることは出來ますまいが必ず良き果を結ぶに至ることを信じております。

左記のものは私がかきまして兩人の部屋にかゝげてありますものであります。序なれば御覽に入れます。

△日々の心得

1 自分の日々の仕事は誰人にも一口なりとも口を入れられぬ心がけ第一なり。

2 命せられし事は返事と一しよにすぐなしおはるべき事。

3 主人主婦の目にとまらば、自分に命せらるゝことゝ思へば言ひ附けられぬ先きにキチントなしおくこと。

4 物を取り出し又使ひ終らば、必ず元の場所におき、一秒時なりとも、あつてならぬところにおかぬ事。

5 時間はキチント守り、仕事は手早く、ていねいにして、すぐ次の用にとりかゝり、手をあけておかぬように心がける事。

6 一度おしへられしことは二度おしへかへされぬといふ位の意氣地あるべきこと。

7 何事にも禮義を守ること。

△一週間の日割

月、（藤）下女の名　手拭一切のせんたく（便所用のものも）及洗濯袋のもの午後又は夜引のし

火、（同）　風呂、便所掃除

水、（久）下女の名　洗濯、午後又は夜引のし

木、（兩人）　風呂、便所掃除、戸棚、鼠入らず二個、ナイフ、庖丁、肉サシ、匙、茶碗、箒木せんたく、金物みがき

金、（久）　洗濯、夜又は午後引のし

土、（久）　風呂、便所掃除、お釜の炭おとし、ふとんほし

（藤）　客間、書齋の掃除、日本間の押入、疊ふき一切

（市場行は兩人にて更代に仕事を見計らひて行く）

日、　休

夕立や草葉をつかむむら雀　　蕪村

夕立のあさの匂や三保の松　　芭蕉

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

清國人の結婚式

片山幽吉

結婚が人間生活上の大問題たることは、清國又西洋と同じで、彼等年若き男子は大身の者は別だが、中以下の小身である以上は、是非之の準備を要するのである。彼等が一生懸命で昔の「江洲泥坊」といはれた江洲商人の如くに、一寸した品を擔いで、東西に行商するも之が爲である。彼等が幸に相當な準備金も出來、父兄の賛同をも得て愈結婚となると其喜びの樣は、振つた者である。併し之は男子の側であるが女子の方は依然舊式の父兄によつて取りし結ばるゝので或場合餘儀なく嫁したが、舅姑と合はざる爲、清人特有の水瓩の中へ眞倒さまに落ち込んで、ミジメナ最後を遂げるそうで、聞くさへゾッとする樣だ。こういふ工合で萬事我々日本人から見ると、一寸變つて居る。隨つて結婚式も隨分興味がある。先づ第一に

●●●媒介人

がある。之ば日本と大差無しで、相互の橋掛をやるが、例の巧みなる辭令でナカ〳〵やることだろと想像される。次には結婚の期節であるが、之は詩經にも桃の夭々たる之比に歸ぐとある樣に、前半期では

●●●●●舊曆の花の三月

である。序に申すが、日本で花の王は櫻だが、清國では桃である。桃にも色々種類はあるが、二三種は丁度日本の杏の樣で、其滿開の樣はビユーチフールである。此花時になると大騷きで花見に出掛けるのである。三國志に劉備關羽張飛の三人が桃園に義を結んで、兄弟になつたのはナカ〳〵洒落たやり方なのである。夫から後半期では

●●●●●節季前の十一月

である。清人は日本の田舍の樣に、一年の支拂が六月と十二月の二度であつて、此時には是非拂はざるを得ないのである。然らばナゼ此切迫詰つた時に費用を要する結婚をするかといふと、一つは暑くなし寒くなしで時候もよいが、も一つは何れ拂つたり借金をするのならば、皆一時にやるべしとの例の經濟思想からも出たのであらうと思はる。夫から結婚の日であるが、之も定まつてある。清國人は東京人も御幣かづき連中はそうだが、矢鱈に友引先勝佛滅云々の六曜をいふので、毎日今日は何の日で半黑だ、今日は丸黑だ等と、一切緣起をいふので、人生の大禮たる婚結は是非

●●●●●丸白の大吉日

に舉げざるを得ないので、例の四月十一月の此吉日に當ると、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

殊に朝から出掛けるが到る所に、お嫁入の行列が見ゐる。先達ても天津の金華橋畔で

花嫁の取換へ

といふ喜劇が演せられた。夫は此日は丁度丸白の大吉日だから、我も〳〵と結婚式を舉げるが、先づ花嫁の方へは花婿の伯父が、馬に騎つて堂々と迎ひに參る。勿論中流社會だが其他には無數の淸國名物の苦力を澤山雇ふて、行列をやるが、第一にはナカ〳〵立派な赤提灯が高く釣るされる。次には銅鑼がドーン〳〵と鳴る。同時に日本ダンキリヤの喇叭の大きなのをビー〳〵と吹奏する。其後には赤旗に赤天蓋、次には大きな鏡臺が五六個も續く、次は伯父に次には

金色燦爛たる花嫁の輿

が行く。之も日本の昔の乘物所でなく京都邊りのお祭りの神輿を細長くした樣で、美觀眼を眩せん許りである。此中に花嫁は凝つた化粧をして居るが、此輿が八方密閉してあるので、時にはおいとしや花嫁は、花婿の家に着いた時には、窒息して居る事もあるそうだ。行列はザッと之位ひだか、今の喜劇は橋の邊りで、二つの行列が落合ふた。所が伯父君等も皆不見不知の連中ばかり、苦力又雇はれて來たばかりだから、此橋でいつしかに二つの輿はゴッチヤになつたが、神ならぬ身の知るに由なく、各目的地に達した。さて翌日になると花嫁の親が挨拶に來る。來て見れば豈測らんや、可憐可愛と育て上げし我娘にあらで、見も知らぬ娘なるにぞ大に驚き伯父や苦力に聞き糺すと、昨日金華橋畔二つ一所になつたから、定めし取り違ひしならんと、種々取調べの結果遂に例の花嫁紛失の訴訟も、花嫁取換へ問題も持上からずに、目出度納まつたといふが、何にしても伯父も附いて居るに、之は餘んまりヒドイと思ふがソコが淸國風である。花嫁か花婿の家に達すると、豫て設けの座式に通す、伯父さんはサッサと御免蒙る。苦力は賃錢をネダル、殺風景極まるが、第一の式は花嫁と花婿とが恭しく

ゴミだらけの孔子の位牌

の前で、所謂叩頭の禮をやる。夫から變らじ朽せじを祝ふて切らないソバを喰べる。夫から饅頭をたべる。偶まには酒も呑むそうだが、お了ひには布靴をはくが、之は歩々（布と音通）登高とやらにて、前途を祝するのだそうな。之が濟むと翌二日目には花嫁が、竈の燒き初をやるそうなが、中には設けの座へ花嫁を押し登せて

三日三夜身動きもさせぬ

のである。而して食事は極少量の消化し易き者を喰べるのみ。夫も其筈ボンヤリやると憚に差支へが生ずる。併しソコは待女が居つて萬事世話をするそうだ。之は我慢が出來るとして、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

此三日間に、花婿の友人交々來つて花嫁の批評をやる。一人は額が廣いとやると一人は眉毛が太いとやる。一人は鼻が天の一方を望むとやると一人は眞紅の唇人を食つた樣だ等と、散々批評を試みる。入箱のおボコ娘迚も堪た者ではあるまい。然らばナゼ輿入より此批評に至る迄、かく殆んど死を賭しての苦しみをさせるかといふと、貞女不見二夫の一寸變調で、彼花嫁が此苦痛にこり〳〵して、再び婚を繰り返さない樣に、罰則的にやるのだそうな。こゝへ來ると近頃の再婚論者等は跣足で迯け出さゝるを得ないだろう。序にお化粧の一般を申すと、材料は梧桐のカンナ屑を水に浸し、夫の汁で舊日本の糠袋に代用し、お白粉に例の猩臙脂でウント塗る一見ましらの觀あるは無理も無い。然かも日本の田舍へ行くと、顏丈は化粧してるが耳の何ろは眞黑で、一見假面を被つた樣だ。況んや手足と來たら熊の樣で、頗る滑稽だか淸婦人又夫で顏ばかりやる。而して頭には色々の曲形を乘せるし、又簪にはイヤナ香りの高い草花を澤山挿む。然し之は下等社會に多い樣だ。

田園生活の一模範

瀨谷孤涙

北海道は函館から汽車で三時間あまり走りますと、噴火灣の岸に八雲といふ驛が御座います。此附近は尾州德川侯の農場で、三十年許り前に舊臣の一團を移された處で、此から御話しようと思ふ小寺氏も此八雲村の開祖の一人で御座います。元は名古屋の藩士で肥前平戸の漢學塾に學ばれた人で御座いますが、至つて謙讓な方で、漢學者振つた事は色にも出されませんが、奧底に蓄積された儒敎の心粋と大和武士の魂膽とは自然に美しき調和を得て、萬事の行爲の上に實現されて居ります。

△畫のやうな景色と溫き家庭

御家族は主人公夫妻と十人の子女とで御座いますが、幸福の土臺となつ居ますものは、實に御兩親から幼兒に至る迄身體が非常に健康であることで御座います。主人公は六旬を越へた先づ御老人と申すべきで御座ますが、まだ〳〵氣前も身體も仲々盛んなもので、常に草鞋穿きに「シャツ」一枚と云ふ仕度で、或は二頭曳の鋤犁を指揮して耕耘に勵み、又は除草に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

収穫に若者も及ばぬ程で御座います。主婦である母公は二十七歳を頭に五歳迄十人の子女を擧げられたので御座いますが、少しも衰へた風情がなく、肥へ太つて一見して完全な健康體であることが分ります。こんな健康な御兩親である爲でありましよう、十人の子女が揃ひも揃つて鐵の樣な身體で、一人も弱い人がなく、産れた子女の内一人も缺けた事がないとのことで御座います。其上皆な肉體の健康と共に頭腦が至つて健全で御座いますから憤鬪的生涯を送るに最も適當して居ります。

面白い話には一番少さい健吾さんが始めは鐵男と名を附られて居ましたが、之れは産れて間もなくどうしたはづみであつたか、抱いて居た人が取落して頭を臺所の板間に打つ附けたそうですか、其音が鐵でも落した樣であつたといふ處から鐵男と命名されたそうで御座います。

氏の家庭は凡ての點に於て近邊の模範とする處でありまして、快活な生活、温き同情清き思想など、實に人をして讃嘆せしむるのであります。今氏の御仕事の模樣から子女教育に就いて大體を述べようと思ひます。

試に其家を訪いますれば牆壁なき農家の周邊には、何時でも各種の西洋花や四季折り／＼の花卉が咲き匂ふて居りまして、後庭には多からねども、林檎、梨、栗、梅等の果樹類が家族の用を充たした外、親しき人々に迄餘澤を及ぼそうとして用意をして居ります。

牧柵を廻らした牧草地には、幾頭かの牛馬が自由に飼養されて居りまして、あちらこちらに一頭或は二頭宛立つて草を喰つてるのもあれば、寢ころんで頭ばかりもたげてるのも御座います。千金の價ある立派な洋馬も交る／＼耕鋤に使用せられて、今頃は可愛らしい幼馬が用もないのに、勞役中の母馬に隨つて往きつ歸りつ、終には親馬よりも疲勞する程樂しげに飛び廻つて居ります。誠に畫の樣な景色で御座います。

乳の出る牛も幾頭も御座いまして、牛乳は何時でもあり餘つて居ります。ミルトンが The milkmaid singth Blittc と歌つた樣な具合に、毎朝雪子孃が露を分けて上手に搾り採られる乳が、大きなバケツに一杯も二杯も御座いまして直に殺菌されて、夏は清例なる井水に氷の樣に冷してあつて、來る人毎に茶より先に大きなコツプで幾杯でも飲める丈け飲まして、後から本式にお茶を出されるのがお極りの樣になつて居ります。夫故極卑しい勞働者でも此處ではやさしい言葉と、親切な取扱とを受けて、喜んで歸り行くのであります。こんな事から見ましても氏の家庭の風や御夫人の御氣質のうるはしさは伺はれるので御座います。

誠に幸福な家庭では御座いますけれど、何にも富豪的生活

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

をしておゐでになる譯では御座いません、黒塗の馬車もありますが、それは農場用の荷馬車で、遊覽の具ではありません。併し何かの時には赤毛布などを打ち敷いて來客の送迎に使用される事もあります。家屋も別段立派な御家ではなく、創業時代に建てられた極質素なお住居で、横の方に建て居る收穫小屋や畜類を入れる牧舍の方が却つて立派な位で御座います。

質素儉約は犯すべからざる家憲であるから、贅澤な御馳走は滅多にないかも知れませんが、自分の家にあるものを利用される事がお上手で、お手の物の牛乳や、新しい鷄卵を使つて麥粉とか馬鈴薯或は八雲名產の澱粉抔で、結構なお茶菓子やお料理を調らへて惜氣もなく來客に饗應せらるゝのが夫人の唯一の樂しみの樣に見えます。豚や西洋の、兎や鷄などは澤山に飼養してありますから折り〳〵之等を屠つて風味あるお料理が出來ます。

牛の良いのと飼料が新鮮なのと運動が自由なので、牛乳の味が東京などとは全然違つて居ります。始は空瓶を澤山用意して置いて、誰にでも一瓶或は二三瓶も呉れてやるのを喜びとして居られましたが、乳がよいのと搾り方が上手な爲め、町の方に牛乳屋があるにも拘らず、態々貰ひに來る人が追々御座いましたので、牛乳屋の方から故障を申し出したので、特別な處でなければ出されぬ事もなりました。以上の事で氏の田園生活が如何に樂しく美しく、少しも迫つた處がなく、心から自然を樂しんで居られるかゞ分る事と思ひます。

△子女の敎育

特に子女の敎育に御熱心な事は地方の評判物になつて居ます位で、夫れが爲めにはどんなに日常の家計が苦しくなつても、或は借金がどんなに出來ても、進むべき學業は瞬時も滯止させぬと云ふ方針で、現今十人の子女の中六人迄東京に在學させてあります。只だ長子の悋藏氏と長女の雪子孃丈けは創業時代の犧牲となつて、地方の高等小學を卒へた丈けで、一意專心に農業に從事して家計を扶け、弟妹の學業を充分に完成せしむるを專務として働いて居られます。併し向上の精神は一家を貫通して活躍して居まして、此二人の兄姉も人一倍の勞働を取りながら、敎科書や女子大學の講義錄抔に依つて自修を續けて居られるので御座います。三番目の叔輔氏は向陵の一高に法科を修め、四番目のせい子姉は一つ橋の女子職業學校を最優等で卒業して、直に同校の敎師に任せられ、五番目の光子さんは本年女子大學の附屬高等女子學校を卒業して引續き修學中、六番目の六造君が早稻田中學の四年生で七番目のきよ子さんが女子大學の高女三年生で御座います。八番目の千代子さんは郷里の小學校に通つて始終男女生の首席を占め、來年當りは同じく上京就學せらるゝことゝ思ひま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

す。九番目の知道君だけは牛込若松町の搾乳家永田夫人の手許に養はれて居られますが之れは永田氏が北海道へ乳牛購入の爲に行かれました時に同道して歸られたので御座いまして幼稚園を了へて曉星小學校に通つて居られます。

特色として嘆美すべき點は、老幼の區別なく、各自相當の業務を負擔されて、忙はしげに立働きながら、少しも仕事を苦にしない樣に習慣が附いて居ますのと、家庭が何時でも活々として何時行つても樂しさうに見えて、而かも各自の心が常によく同じ方向に調和して進んで居ることで御座います。餘り讃める樣で御座いますが、老幼の間にチャンと程よく禮序があつて、父母は子女を愛し其幸福と將來の完成に全力を注がれる。子女は又父母に絶對の尊敬を捧げて凡ての命令が遺憾なく行はれて居ます。

質素と云ふ事は生れ附ての特性となつて居りまして、男子は申す迄もなく、姉妹の中一人も化粧服裝に餘りの考慮を費やす人は御座いません。而かも適當な修飾を怠られる樣なことは御座いませんので、人の前に髮を亂して惡感を起させる樣の事は決して御座いません。一貫して居る精神は實に向上的で御座いまして、父母君は子女を尤もよく大成せしめんことを希望され、兄姉は全身を犧牲にして之を賛し弟妹亦た孜々として一意勤勉して各自の學業を勵み、出來得る限り自己を研磨して父母の願望を充たすを唯一の務として居られます。隨つて分外の浪費をなす人もなければ、惡路に踏み迷ふ恐れは御座いません。

年中絶えず往復せらるゝ信書は實に親愛と諧謔とに充ちて居まして、さながら面語談笑せられつゝあると同樣で御座います。其中でも一年一回の樂しき時期は夏期休暇で、多くは兄妹全部を歸省せしめて一家團欒の樂を恣にせらるゝ時で御座います。併し消夏の仕方が大變風變りで御座います。母君の云ひ草には「之等子女の爲め父君始め家族全體が朝から晩迄汗水垂して居るので御座いますから、夏休みの間丈けでも家業の手傳を致させます」との事で一高の叔輔氏を始め姉妹迄も炎天に畠に飛び出して、兄君と姉君と共に農業に手傳はされるので御座います。此點から申せば休暇處ではなく一番苦しい勞働期で御座いますが、之れは必ずしも收益の爲めでは御座いません。年中頭腦許り使つて肉體の健康が減却するのを補足する爲めで、青ざめかゝつた血色を充分に日光に浴せしめ、且つはゆるみかけた筋肉を更に健全に緊縮させる爲で御座います。之に就いて先年夏期歸省の折お幸さんは「外のお友達は海水浴で色が黒くなつたのを誇り合ふので御座いますが、自分も黒くなる丈は負ける恐れがない」と云つて居られた事で御座います。

摘草集

△斷えず小兒に仕事を與ふる工夫

豐明幼稚園主事 甲賀藤子

子供は何かしないで居られぬものですから、もしこれを利用してよい方に導きになれば、子供の發達上非常に有効な事で御座いませうが、もしその道を啓いてお遣りになりせんと、その力が外れて途壁に落書をしたり致します 然し禁ずべき事は叱つても、泣かせても、斷じてお止めにならなければいけません。その代りお母樣は御面倒でせうが、何か始終仕事を與へて頂き度い。臺所でお芋の皮を剝くお手傳なり．またそれが出來なければ、笊に入れる事でもおさせになれば、子供は非常に喜んで致します。畑でもおあり家のならば、茄子なり、胡瓜なり、「あなたも取つて下さいよ」と云つてお取らせになれば、痛めずに上手に取るものです。書く爲めには紙なり、石板なりお與へになり、また緣側の端に小さい黑板一つ位お備へになつて置けば、子供はどんなに喜ひませう。多分黑板は三四十錢で買へませうから。またお家に大工でも御入つて居る時ならば、鋸屑に交つた木片ずも拾つてお置きになれば、積木の材料になりませうし、反物の上に付いて居るレッテル一枚でも、その他卷紙を包んである繪紙でも、或は古熨斗でも、一寸の御面倒を見て取つて置いておあげになれば、雨降りに箱張りなども出來て、大層面白い事です。その他又かねて親類からお人かお見えになる事等が分つて居りましたら、お子供に面白いお話でも用意させてお置きになれば、おもてなしかた〴〵お話の練習をおさせになる事が出來ます。さもなくとも、夏はどんなお家でも涼みに出る事位はなされませうから、其時は草の花でも、石ころでも、面白い形のものは子供の注意を誘ふて、これをおさらせになり、標本のやうに大事に保存してお置かせになる事は、子供の趣味を廣くする爲めに大切な事で御座います。(家庭)

△理想的避暑生活

高島平三郎

避暑地で最も危險な、且つ保護者が最も注意すべきことは、以前からの友達でなく、子供が偶然海水浴などで出遇つた同士を、隨意に手放して遊ばせることであります、斯う云ふ所の良ない家庭には、種々惡い經驗のあるものが大勢集つて居て、殊更に善良な少年少女を誘惑しやうと思て居るものが澤山あるですから、父母若くは附添の人達は、是等のことにも好く氣を附けて、友を擇ばせると云ふことは未知の土地だけに、一層必要であります。出來得べくんば、子供の爲めに避暑は親類や知己の者が申し合はせて、一種のコロニーのやうな生活をするが宜しい、さうすれば親交も一層增し、毎日愉快に遊ぶことが出來、又時々面白い會合をする事も出來ます、例之は親類や緣者が皆集つて、家庭的娛樂の會などを開き、音樂の嗜みあるものは謠ふもよし、ヴヮイオリンを彈くもよし、又子供は互に自分の作つた文書和歌などを席上で讀み合うと云ふやうなことも、大變に結構であります、一體日本の家庭は平素爾う云ふやうな娛樂に缺けて居るのですから、避暑地に於ける會合を動機として、銘々家に歸つて後までも一年に何遍とか定めて置いて、御互に都合の好さゝうな時期を選び爾う云ふ會合をすると云ふことは宜いことであると思ひます、其會は子供は子供の會、青年は青年の會、主婦は主婦の會と、各々別にしてもよし、又時には衆が共同して樂みを廣く大きくしても宜いさう云ふ風にして、愉快の間に少なくともこれまで得て居る良い習慣を崩さぬやうに、又避暑に往つた爲めに新らしい良習慣を造るやうに務むるのが肝腎であります。(時事)

△小兒の飲料

醫學博士 加藤照磨

子供の水を飲むことを非常に恐れる母親があるけれども、子供は大人よりも活潑に運動するから、餘計に渴を覺ゆるのは自然である。即ち身體が水分を

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

要求するのであるから、一概に制限するのは却て宜しくない。注意してよい飲料を與へるやうにすればよいので、それには幼兒のためには滅菌水、即ち一旦煮沸した水がよいのだが、注意すべきことは、一度煮沸した水は、いつまでもよいといふ譯のものではない。煮冷し水は何時間たつと駄目になるとは、ハツキリは云へないことであるけれども、朝一よりは午前と午後に煮冷しを拵へて、栓の充分堅い瓶に入れ、出來るだけ風通しのよい所に置くやうにすること。麥湯は利尿の効あるものだし、味のある丈け唯の煮ざましよりも、子供の好くものである。併し下利の氣味のある時はやらない方がよい。獨逸あたりでは淡い紅茶をこの節子供の湯料としてゐる。やうな時には、却てひきしめる。矢張冷して置いてやつてもよいのです。サイダー類なごは充分新鮮であるといふ信用のあるものに限つて、子供が望むならば、たまに少量位はよいとしても、度々多量に用ゐさせることは至つて、宜しくない。

牛乳はまた水なごとは違つて、殊に腐敗しやすいものであるから、牛乳を用ゐる子供のある所では、秋口までは殊に細心なる注意を以て、出來る丈け新鮮に保つ工夫をしなければならない。一體完全を云ふならば、梅雨から秋口までの家庭には氷箱が必要です。一つの冷藏器があるならば、朝拵へた前の參湯も煮冷しも殊にこの牛乳なごは、例の通り煮沸して、直ぐにその中に入れて置くといつまでも安全であのです。前にも些か話したことがあると思ふが、牛乳は井戶の水にでも入れて置くなら格別、小さな器などに汲んだ水の中に入れて置くのは、却て宜しくない。といふのは、汲んで置いた水は直ぐにぬるくなる、ぬるくならない中に〳〵と取代へることは殆ど不可能である。ぬるくなつた時に冷たい水をとりかへる、この溫めたり冷したりすることは、また腐敗を早くする一つの原因となるからです。かういふことをするよりは、いつそ四方から風通しのよいやうな位置に、そのまゝ置く方がよいと思ふ。煮沸器は御存知のゾツギスレー氏のものを用ゐること。

（婦人之友）

△夏向の菓子「黃金羹」

櫻井女塾長　櫻井ちか子

夏の來客に饗する極淡泊したお菓子を、私は此間工夫して拵へて見ました。評判は至極宜しうございますから、一寸御紹介しておきませう。これは誰にでもお手輕に出來て、それで經濟でお美味い上品なお菓子です。

自分で工夫したのですから名前のつけようがありませんで取敢へず「黃金羹」と名つけました。

コンフローア、アツゾイング

材料　コンフローア　大匙二杯、砂糖　大匙二杯、湯二合、卵一個、

先づコンフローアと砂糖を一緒に鍋に入れ。水大匙一杯位にて溶き、其中に湯を加へ火にかけて攪きまぜながら練り、葛湯の樣になりたる時火から卸し、玉子の黃味だけ加へ、よく攪きまぜて後香料（レモン抔）を加へ、小丼又は菓子型に移し込み、冷えたるとき其器より取り出し、小皿に盛り、生乳をかけるか又は左の二種の何れかをかけて食するのであります。

一種　牛乳二合の中へ砂糖小匙一杯と、コンフローア小匙一杯と、食鹽小量、バタ小匙一杯を入れ攪きまぜながら一旦煮立たせ、冷えたるとき香料を加へて前記のものにかけるのです。

二種　玉子の白味一ヶ分の中へ砂糖小匙一杯を加へ、泡立器にてよく泡立ちたるものを前記のものにかけるのです。

右二種のかけ汁を使はずに、夏蜜柑の實か又は苺などに砂糖をかけたのを副へて出しても宜しいが、又牛乳に砂糖を加へたものをかけても可いのです。

以上に述べました菓子は夏向用として極めて簡單で、體裁もよく中々美味しいものでございます。子供や病人抔には最も適當しておりますから、皆樣試しになつて御覧なさいまし。コンフローアは舶來のが一袋十八錢で百人前位は出來ますから、お安く上ります。尤も葛でゞも出來ますが、葛はコンフローアのやうにサツパリ致しません、些と〳〵致します、コンフローアは玉蜀黍で出來るものです。

（婦人世報）

△最も効能のある蚤の驅除法

醫學博士　宮島幹之助

不經濟な蚤取粉など用ゆるのを廢めて、先づ天氣の好い日に家屋の內外を淸潔に掃除し、疊の下、其他戶棚の隅など、塵埃のありさうな所には揮發油を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

噴霧器で撒布すれば、蚤は卵まで皆死んで了ひます。揮發油は火が付き易いものですけれども、直く放散しますから、注意して使ひさへすれば危險な事はありませぬ。若し揮發油が危險だと思ふならば、臺灣總督で作られたデシン、フエクトル液を水に溶解して撒布すれば宜い。即ちデシン、フエクトル一ポンドを水一斗に稀渺めて用ゐるのです。

又疊を悉皆上げてよく掃除し、古新聞紙を床一面に敷詰めて其上に疊を敷けば、蚤は發生しませぬ新聞紙の活字のインキで除蟲の効があるからです。或は又塵埃の所に熱湯を注いでも蚤は殺されます。柿の葉が蚤除けに宜いといふ說もありますけれども、効能はないやうです。

犬猫の蚤を落すには、硫黃と樟腦とを搗り交ぜて、毛の間に擦り込むと取れます。或は又前に述べたデシン、フエクトル一合を水一升に溶かして、それで洗つても効能があります。但し之で洗ふと後がべと〳〵しますから、石鹼でよく洗ひ落さなければいけませぬ。それでも藥の香ひは多少殘りますけれども、惡い香ひではありませぬ。否、却つて此香ひがあるために新に蚤の附くことを防ぎます。嬰兒などでも、夏此デシン、フエクトルの稀渺液で身體を拭いて置きますと蚤が喰ひませぬ。蚤に喰はれて痛む時や、腫れた時には、リスリンを塗ると、緩和の効を奏して癒ります。（斯民家庭）

△衛生上の適否

醫學博士　北里柴三郎

一體衛生の極意は、習慣に重きを置くと云ふにあるのです、日本人は兎角習慣を打破すると云ふことを何とも思はない、これが日本人の一ツの惡癖ですが、人間の習慣などゝ云ふものは、さう輕々しく破るべきものではない、惡い習慣は無論取除かればならぬが、それとても急激に取除くのは宜しくない、例えば酒を飮むことの宜しくないのは誰れも知つて居る、煙草の害も知つて居る、けれども人間の飮みたい、吸いたいと云ふ意地の汚ない加減と云ふものは、其害を知りつゝ止められない、若しさう云ふ意思の弱い人が、それを強ゐてパタリ止めると、其人の身體に變動を起すから、反て惡い、それ故惡い習慣を除くにしても、徐に注意して改めるやうにするのが肝腎です、況して善い習慣は、大切に保持して往くべきです。

夏期の衛生とても其通りで、私に言せると、山だの海だのと騷ぐ必要はない、何でも在來の習慣に從つて身を處して居れば、それで澤山である、殆んど近頃では、盛暑の候東京に殘つて居るものは、餘程の間拔けのやうに思つて、猫も杓子も避暑だ、旅行だと騷ぎ立てるが、果してそれが衛生上に適して居るか何うか、第一に疑問である。日本人が金も無い癖に避暑だの海水浴だのと云ふのは、ちと贅澤過ぎることは畢竟醫師も與つて罪がある、避暑地に往つてゴロ〳〵して居るよりは、東京に居て働いて居る方が、餘程衛生上に利益が多いかも知れぬ、健康な者に向つて、夏は海邊に往けの、山間に往けのと言ふのは、醫師の素人脅かしである故に私は同じ脅かす位なら、今日の日本の形勢上、或は國家經濟の上から、夏は海岸も山間も衛生上に害があると言つて遣りたいと思ふ。（時事）

△茄子の山かけ

桑原東浪

茄子の皮をむき、竪に四ツ割にしてこれを、又四つ位に橫切にする、結局賽の目になる樣に刻むので、水に浸してアクを拔き、湯煮てから笊に上げて水を切つておくのです。それから茄子を十としたら、煮汁二合味淋一合、醬油六勺位の割で下煮をして味をつけておく。別に佛掌薯の皮をむいて、擦子で擦し、好く搗つてから、先づ薯七十目と見たら、鰹節の煮汁五勺、味淋の煮汁一勺、醬油二勺の割で、搗り鉢の中に入れて、好く搗り混合て、以前の茄子をお皿に盛つて、その上に薯をかけて出すので、この山がけは魚の身でも何にでも應用いたしますと、なか〳〵結構なもので、鮪の身を賽目に切り味淋醬油に漬けておいて、この山かけをしたのを慈まより轉じて、トロマと洒落て名付けてゐます位、味は極めてお滋味ものです。これには厭を添へます。（女學世界）

隨感

無意味の贈答

安井哲

世の中が次第に複雑になり、從つて公私の用事が次第に增してまゐりますから、吾々は成るべく簡單な生活をなす樣に工夫致しませんと、比較的價のない事に、時間や勞力や、又金錢を費す樣になります。簡單生活の精神は、出來るだけ物事を敏捷に處置して、無益の手數と時間とを省く事と、出來るだけ形式的の交際を廢して無意味の贈答を省く事であります。今甲の場合を暫く置き、乙の場合に就いて時節柄の適例を擧げますと、單に義理の贈物などはお互に廢する樣に致したいのであります。中元とか歳暮とかに、知己朋友を訪問して安否を尋ぬるのは、固より美くしい精神でありますから、折節自分の庭に咲いて居る花を贈るとか、手製の菓子を贈るとか、又は地方の知己から贈られた產物などを分配するといふのは、情の籠つた贈物であり、又常に出入する家の召使に何か適當な品物を與へて、日頃の勞に報ゆるといふ樣な事は誠に美くしい事でありますが、單に儀式的に、朋友知己の間で、故さらに品物の贈答をするのは、實に無益な譯で、之れが爲め多くの費用を出さねばなりません。贈物には前申した通り美くしい情がこもつたものでなければなりませんのに、單に金錢を費して品物の交換をするのでは、少しも意味がありません。吾々はお互に年々交際の範圍が廣くなつてまゐりますから、自然に交際費も增加してまゐります。其故に互に簡單な生活を樂しむといふ習慣を作り、互に眞情の交換で滿足したいと思ふのであります。勿論時には此情が物品を通じて現はれる事もありますが、單に義理として、又は形式として、無意味な贈物に無益な金錢をつかふ事は、互に止めたい者であります。此間もある年若の奧樣が來訪されて、云ふにも足らぬ私の小さな盡力に對して、厚く禮を述べられ、「まだ御中元の御挨拶にも出ませんで申譯が御座いません。いづれ一兩日を經て必ず」と申されましたが、誠に無意味の御挨拶と感じました。互に多忙の人々が、つまらぬ事に度々時間を費す必要はないので、其折に御中元の御挨拶を述べられ、心から私のつまらぬ勞力に對して感謝せられたなら、それで充分であります。一兩日たつて再御挨拶に來らるゝといふ意味は全くないのであります。是等が眞に形式的の交際といふ者であります。一體眞に親切な人は、報酬の爲めに他人に助力するのではありません。其故に心に感謝の念もなくて、物質で他人の親切に報い得ると考ふるのは實に輕薄な考であります。そこで吾々は將來知己朋友の間には、力めて無意味な贈答を避けて、互に簡單な生活を樂しみ、心からの贈物か、又は眞情其物の交換を樂しむ樣に致したいと思ひます。

親切

海老名みや

人は親切でなければならぬ、又深切にありたいものですが、其深切に樣々ありまして、所謂深切らしい深切あり、深切

らしからぬ深切あり、深切ごかしの深切や有難迷惑の親切など樣々ありまして、只何でも親切でさへあればよいと一概にはいへませぬ。私はこの深切に付て曾て二つの教訓を受けたことがあります。忘れもしませぬ、今より廿七年前まだ花嫁時代の比でありました。處は日ぐらしの里今の日暮里の花見寺で、基督教徒大親睦會が開かれたことがありました。私も良人とゝもに參りましたが、樣々の人が群集して居る中に、女の盲人が、柄にもない足駄をはいて杖を力に、坂を下りかけて、かうじはてゝ居ります。私は其樣子を見るに見かねて前後の分別もなく自分がはいて居た低い駒下駄をぬいで、其足駄ととり替へてやりました。其人は恰も地獄で佛といはんばかりに非常に喜んでくれましたので、私もアゝいゝことをしてあげたと何となくよい氣持で、面白く遊んでをりまして、サア歸らふとして見ると、困りました。其盲人の行衞が分りませぬ。何しろ大變な群集ですからどこをどうさがしてよいか、まご／＼して居ると何をおさがしになつてるといつて、二人三人、五人七人、と大勢よつて來て大ごとをして、やつとさがしだして下さいましたので、下駄をはきかへて歸りました。サア其途中大議論が初りました。結婚後初めての爭論で恐らく私共夫婦口論の空前であり又絶後であらうと思ひますが、良人が申されますに、ソラ、云はないことかお前は前後の分別もなく情の動くまゝに人に深切を盡すからいけない。けふの事はよい例だ。一人に親切をした爲幾人に迷惑をかけたか知れないではないか。もつと前後の分別をして親切をしなければならないと、大しかられにしかられました。私にも相當の理由もありますから、ヤッサモッサ激論の末結局私の敗で爾來親切に對する教訓として深く心に刻んで居ります。

今一つ。母がよく申ました。人に親切を盡すには心行くまで親切を盡さねばならぬ。あの時かうもしておいたらばとあとで思ふ樣な事があつては、生涯の心殘りだと申して、ずゐ分細いことまで氣をつけてまめに世話をやかれました。一例をあげて見ましやうならば、あるとき母の手許に一兩年もあづかつて居た娘を其人の一身上のことでにわかに京都へ送る事になりました。あれこれと手落なく世話をしてやりましたがあまり火急な事で頭髮を洗つてやることが出來なかつた。それ丈が心殘りだと申てフノリを紙に包んで荷物の中に押込でやつたの見ました。これは何んでもないことですが、これ程までの心盡しは千金の價があると思ひます。わづか五厘か一錢のフノリの一片が荷物から出た時には、其人にいひ知れぬ溫情を感ぜしむるであらうと思ひます。通り一ぺん、義理一ぺんの親切はあつてもなくつてもよいと思ひます。汝心を盡し精神を盡し意を盡して主なる汝の神を愛すべし、又己れの如く汝の隣を愛すべしとは何といふ懇切な溫い言葉でしやう。すべてこの心より湧き出す深切を人に盡したいものであると思ひます。

境遇と影響

境遇はどれ程迄影響するものか。數ならぬ私共には分りかねますが、これは自分に取つては涙で得た實驗の一つで御座います。早く父に別れて、西東さへ分らぬ身に、世の哀を覺え初めて以來、悲し

い、苦しい、數々を盡しました。何も分らなかつた幼い昔は兎も角。物心ついては怎うぞ境遇に負けてはならぬ。負けはしない、と歯を嚙ない計りの考で、絶えず戰ひました。けれども負けまいとした其心の中に知らず〳〵自分を傷つけたものがあります。何あにこれ位の事、と出來ぬものをもやらうとした其思の中に自分を傷けるものがありました。時とすると、自分は順境にすら〳〵と波風もなく育つた方を見て、嗚呼自分も若しあの境遇に居たらばとつい愚痴の出る事も御座います。けれども皆さん、誤解して下さるな。自分は人様を羨むのではありません。夢、人様を嫉むのではありません。が淺薄な自分には順境の方でなくては得られぬ、あのやさしい、柔和な心が欲しいのです。

順境に育つ事も弊は無論あります。我儘になり怠者になり、意志の弱くなることなど、擧げたなら數多く御座いましやう。けれどもそれは多くの方が能く申されて居る事。何も私共が今更めかして述べる必要もありますまい。自分は艱難は玉にすると聞きました。冬枯れに咲く梅の聲を聞きました。そして眞面目に苦しみにさへ勝てばと信じました。所が氣を付けぬと自分を研く艱難はやがて自分の胸を刺す刃である事が分りました。逆境の人。言葉が何だかちとやかましいやうですが然う云ふ方には大抵額に曇があります。顰めた皺の跡が消えもやらず、鮮やかに見られます。かやうな方を見る度毎に、嗚呼、あの人も苦勞をなされたかと、云ひ知れぬ思に胸を打ちますのも一度ならずございます。苦しい、悲しい中で、弱い氣を出しては通れません。併し強い心ばかりに充たさるゝと、頑になつて何時となく肩肱を張るやうになります。まさか女だてらにと御笑ひなさる方も御座いましやうが、御氣を付け遊ばさぬと顔には笑みを含んでも心にはとげが出ます。何時の事でしたか、私が田舍の母を尋ねたいと思ひまして暇乞の爲めに親戚に立寄りました所。親戚では急の事で別に土産も調ひられぬから、途中で何なりと買ふて呉れと、若干を包で出して呉れました。そこで平生獨立々々と申します私はすぐに辭退致しました。けれども先でも折角出したものを左右なくは引込めません。どうぞ。いゝえ。どうぞ。いゝえ。先では無理に取らせやうとする。私は取るまいとする。遂に私が負けて手に取らせられました。その時私はその金を歸り乍ら、ぽんと庭から投げ入れた事が御座います。先様は怎う思ひなされたか。今に考へて見ますと、獨立と思ふたは孤立となつて居たのでした。獨立は申す迄もなく結構な事。而かも恁う迄好意を無にして何になりませう。（信）

婦人の職業問題

△世が世智辛くなるに從つて、人生は一大競爭場と變り、到る處生活難職業難を嘆ずる聲が聞かれない場處がない程で此座います。就職難が幾萬の學校卒業生を劫かして、其青春の血を枯渇して居る一方には、「近代人の疲勞」の中に壯年の人士が營々して活力なき生を導いて居るあはれなる有樣は、明かな事實として吾々の眼前に横はつて居るので御座います。此の現象は只に男子の側に於て見らるゝ許りでなく、近來は女子の上にも深甚なる影響を與へて居るので御座いま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

す。例へば女學校の卒業生などは卒業後は直ちに結婚といふ事が問題になり、結婚したらあゝしてかうしてといふやうな嬉しき心配に胸を痛めて居つたものが、近來は先づ如何にして獨立の資を得可き乎の痛ましい事に、當人も父兄も心配して、手藝なり何なり一つ獨立して生活の出來る樣にといふ處から、職業學校や又は技藝學校が頗る繁昌するといふ現象を呈しておるのでございます。

△女學校の卒業生の如き比較的其家が資産に於て猶豫がある事を豫想される人々の上にも尙ほ此の如き傾向があるので御座いますから、學校にも通はせられぬ家庭の子女又妻女は、必ず其家庭のため又は自己の爲めに何等かの職業に從事しておる事は勿論の事であります。工業商業通信等が發達し行くに從つて、女子の職業も擴張され、今は立派な職業上男子の敵手として認めらるゝ如き有樣で御座います。

△最近の獨乙新聞によりますと、一八九五年に十四より十六歳迄の女子にして手工に從事したもの七萬三千九百八十一人を算したものが、十一年後の一九〇六年には十四萬五千三百二十五人に增加して居る、卽ち百パーセントの劇增を示して居るのであります。又十六歳より二十一歳迄の女子が前同樣の年限に於て二十六萬〇三百三人より四十二萬六千二百人に卽八十四パーセントの增加で、伯林市中におきましても年若き婦人の二十パーセントは職工として工場に働いて居るといふ事で御座います。之れより推しまして全世界の婦人が自己生活の爲めに家庭を外にして工場なり他の場處に於て勞働に服しておる者が如何に多數であるかゞ解らふと思ひます。

△日本は未だこれ程劇しい割合を示しては居りますまいが、一般に女子が自己の家庭を見捨てゝ、工場及會社內に終日を働き通す傾向が多くなるだろうと思ひます。差しあたり工業の發達、工場の增設などは益々女子をして家庭外の職業に從事せしむる便利を與ふるもので、たまたま紡績會社、葉煙草專賣所の工場及砲兵工廠等の退出時間に出會すれば所謂女工の數の夥多なるに一驚を喫する次第であります。斯の如く女子をして家庭外の勞働に服せしむるといふ事は生活上已むを得ぬ事とは云へ、之は實に諸種の點に重大なる關係を有する事だろうと思ひます。卽ち若き婦人の身體發育の上に、家事整理の上に育兒の狀態の上に、從つて引いては國家の將來の上に至大なる影響を及して來る事で御座いますから、世の識者の等閑に附す可らざる問題であらふと思ひます、それ故次號に於て猶少しく申してみたいと思ひます。（楠男生）

新刊紹介

◉當世細君氣質　佐々木邦譯述　內外出版協會發行　定價金四拾錢

「いたづら小僧日記」や「おてんば娘日記」等によりて文名をはせた佐々木邦氏の譯述されたるもの、輕妙な筆致には何時もながら感心してしまう。つい／＼吹き出して笑はせられる中にも、何處か溫かな人情が籠つてゐて、シンミリさせる處もある。此書も幾版も重ねる事であらふ。

前號正誤

十六頁下段小見出中　百性は百姓に
三十六頁下段十五行中　鍵は縺に
四十一頁上段十一行中　越後は甲斐に
四十五頁上段小見出中　署は暑に
四十七頁上段七行中　材人は材木に

編輯だより

△石も木も眼に光る暑さかな、誠に堪へ難き暑に有之候。額に入染む汗の玉は如雨露の水を打ちたるが如しと誰れやらが申候ひしが、其汗の玉ぬぐへも敢へず、机上に筆執り候へば、べた〳〵と紙の手に附き候氣味惡るさ、炎天に鋤とる百姓を思へとの御さとしも承りたる事には候へど、夏には痩せる例なる身には、漣波打ちよする長汀曲浦、青嵐薫ずる巖の里に、おのがじゝ滿腹の涼を領し給ふ讀者諸姉の上こそ、こよなう羨まれ申し候ひしか。

△されば、夕顔棚の下涼み、故郷の話に幼き夢のあり〳〵と映ずる情もおはすべく、海樓の一角雄風に長き袂はらませて、友語りに月の西に落ちるも忘じ給ふ興も候べし。其情其興こそ寂しうも都ましれるわれらには、誠に羨き清涼劑に有之候ものを、時の早ければか、未だいづ方よりもおたより得ぬは返す〳〵もうらめしき事に候よ。

△期九月に入り候はゞ、新涼と共に讀者諸姉もまた都門に歸り給ふ可く、人の心もやう〳〵に引きしまりて、燈下机上、又自らなつかしき趣きを具ふ事に候へば、われら又鋭意編輯に從ふ可く候。在米本田氏の原稿は已に到着いたし居候へば次號に掲載の都合に候。在英内ヶ崎氏、在獨吉野氏よりも大に寄書する旨の報知に接し居候へば、誌上に新風味を呈する事遠からぬ事と待ち居候。久しく本誌に見え給はぬ野口先生も、前々號に山の色十首を出して其才色を書かれ給ひし同令夫人も共に御寄稿下さるべき約に有之候。

△本社同人有田四郎君は畫筆をのせて遠く北海の野に去られ申候、畫にも文にも堪能の君なれば、本誌へのおた土産も多き事なるべしと豫期致し居候。相原君また本月四五日頃官命を以て有田君の後を追ふべく候。主幹海老名氏令息一雄氏は去月廿一日日午前十時半新橋發米國留學の途に就かれ申候。

△諸種の投書を歡迎致候。

△皆々樣の御健康を祈り申候。

同人消息

◉野口精子の君は七月中旬矯風會大會出席のため上京せらる。

◉海老名主幹同夫人今夏は在京されて夏休にて上京の諸兄姉を接待されつゝあり。

◉安井主筆は七月中高等師範學校附屬幼稚園主事に任せらる。此の夏は上州地方の山中に避暑せらるゝ由。

◉元良夫人も御元氣に居らせらる。

◉野口末彥氏は一雄氏見送りのため廿日出京二三日滯在歸福せり。

◉三澤糾氏は今夏愛媛縣教育會講演のため同地方に出張せらる。

◉小山夫人菊野子は小田原より鎌倉に移轉せらる、追々快方の由。

本誌定價 一部金拾錢（郵稅ナシ）◎六冊半年分前金六十錢（郵稅ナシ）◎壹ケ年分十二部前金壹圓拾錢（郵稅ナシ）

外國行定價 壹部金拾四錢（郵稅ナシ）◎半年分前金八拾錢（郵稅ナシ）一ケ年分前金壹圓六拾錢（郵稅ナシ）

廣告料	
行廿七字詰	金廿五錢
四分ノ一頁	金三圓
半頁	金五圓
一頁	金十圓
內表紙十二圓	外表紙拾八圓

●本誌代金は總て前金に御拂込み被下度候

●郵劵代用は一割增の計算にて御送附被下度候

御送金は振替にて拂込るゝ方便利に候。但手數料金壹錢御加へ被下度候

通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず左の宛名に願上候

東京市小石川區小日向臺町
三丁目九十三番地
新人社事務所
振替貯金口座一四〇〇五

明治四十三年七月二十六日印刷
明治四十三年八月　一　日發行

發行兼編輯人　東京市小石川區林町四十三番地　海老名彈正
印刷人　東京市小石川區小日向臺町三ノ九三　相原一郎介
發行所　東京府下豐島郡巢鴨村大字巢鴨六百六十一番地　新人社
印刷所　東京市赤坂區田町五丁目十一番地　齋藤活版所

日本の家庭に必備すべき寶典

●室内諸物品の裝飾法は如何にすべきや●

子爵秋元興朝閣下題字
今泉雄作先生序文
高橋義雄先生序文
杉本文太郎先生著

◉どれほど結構な品を所持するも裝飾要を得ざれば其價値を十分に發揮することを得ず之に反して左程結構な品ならずとも裝飾巧みなれば自から一種の趣味を惹き起すべし本書は其方法を詳述圖解せる本邦唯一の珍書也。

(最新刊)

日本住宅 室内裝飾法

好評嘖々增刷出來

◉正價金壹圓◉送料十二錢
◉滿韓臺灣送料金三十錢

目次大要

●家屋と床●書院●天井●疊●棚●床●床飾物●飾物と心得●掛物●卷物●額●屏風●茶爐前の飾り方●臺子の飾り方●香爐●香爐と其形●香の種類●香盒●灰炭及香の炷き方●卓●眞行草の飾卓●火筋立●簾及び帷●しとね及敷物●忌み嫌の花●佳節の花●折入の花●蘿葛藥玉及茱萸囊●飾物見やう●古人と用意●煎茶飾（以上を數十項に分類記述す）。

發行所 東京市京橋區南槇町十三番地（振替口座九四一八番）建築書院

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東伏見宮妃殿下

の御愛讀を辱ふす

入會の最好機今日直ちに入會せよ

内容 斯の如く 豐富

壹ケ年 修了

女子手藝講義錄

裁縫科（和服洋服） 編物科（各種） 組糸科（各種）

刺繡科（和洋各種） 袋物科（各種） 造花科（花卉果實）

割烹科（和洋料理 和洋菓子） 細工物科（撮細工、綿細工、瓶細工、裁縫細工 押繪接物細工）

手藝用圖画科（用器畫、配合法、運筆寫生法圖案法） 手藝教授法……

其他課外講義數種

共立女子職業學校内 櫻友會 女子手藝普及會編

入會者の質問は毎號誌上を以て懇切叮寧に解答をなす

優待會員の製作品は審査の上賞品を呈す

壹ケ月入會費 僅に金參拾錢

壹ケ年會費 金參圓二十四錢

半ケ年會費 金壹圓七十錢

日本の婦人は如何なる事情ありとも此の有益なる講義錄を家庭に備へる必要あり（内容見本入會規定無代進呈）

小中等教員受驗を受けんとする婦人は速に入會せよ

機敏に世の流行を逐うは本會の獨得

入會申込所 東京日本橋角 大倉書店

◀振替口座東京二三八番▶◀電話本局四一四番▶

菅谷秋水君著

新曲 ます鏡

巴と靜

源平時代の修羅の巷に優しくも咲き出でた二ともとの菫、弓矢雄叫びの繪卷物を彩つて居る曲線美、何と絶好の詩題ではない乎、著者は嘗て『北條時宗』と『明智光秀』の二書を著した史家であるが、今又美文を以て、此「巴と靜」を公にされた、此絶好の詩材に絶妙の文を以てす、此兩女性が如何に脚色されたか、如何に文章の美しきか、謹んで御淸鑒を俟つ。

體裁瀟洒美本
全一冊
正價金五十錢
送料六錢

森田草平氏序
泉鏡花氏序
藪野椋十氏跋
名取春仙氏著畫

デモ畫集

新裝菊判全一册
正價金壹圓
送料八錢

東京朝日紙上常に奇想天來の妙筆を揮て讀者の喝采を博しつゝある名取春仙氏の畫集である、著者は、これデモ畫の積りだと言て居る、が、觀者には畫と見へるか、どうか、夫は頗る疑問である、兎に角チョイと内容を説明さして戴かう。

本書の前半は**漫畫**數百を納め、後半は**文藝畫**を收めてある、漫畫にはユーモアの眞髓を、文藝畫には漱石、藤村、草平、鏡花等諸家の名文と對して、「三四郎」「春」「煤烟」等が繪卷物となつて讀者の前に展開されてある。序に手前味噌を…………

『何度繙いても繙く度に新に新しい感興が湧て來る所が「デモ畫集」の生命である。』

發行所
東京市日本橋區下槇町十二番地
振替貯金口座 東京六四三五
如山堂書店

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

羽仁もと子編輯

毎月一回
一日發行

婦人之友

一冊金拾貳錢
半年六十五錢
一年壹圓廿錢
（郵税共）

●三巻六號（七月一日發行）

便利なる臺所＝其二（口繪）

健全なる平民的生活 …… 羽仁もと子

多忙なる父親と忘れられたる子供

夏期に於ける小兒の生活 …… 醫學博士 加藤照麿

冷水摩擦、飲物のこと、避暑のこと、海水浴のこと、避暑地としての山と海、

二つの誓ひ（秘密をつくらぬこと と借金をせぬこと） …… 某氏

わが感心しつゝある家庭（課題）

父母の訓（弱い子供、あたりまへの子供、強い子供）

目と頭を忘れてはゐないか（女中のために）

主婦の經驗

生魚をながく保たせるには○ビールの餘りを豚料理に利用すること○どゝろのだし○單衣の丸洗ひは絞らぬこと○がしがらでんぶ○きび團子○夏の飲みもの○櫻桃のジエレー○古メリヤスの猿股等

家政問答 …… 編者

育兒問答 …… 編者

根本的に考へること

子供に如何なる規律を與へてゐるか（其二） …… 齋藤春代

大人の臺所前掛（子供用にも適するもの）

夜具の寸法

西洋の寢冷知らず

讀者消息（下婢なしに四人の子を育つる母親より。女中の世話は斯ういふ風に。紹介するものゝ樂しみ。）

●三巻七號 八月一日發行

發行所 東京小石川雜司ヶ谷町 振替東京壹壹六〇〇番 婦人之友社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

院長診察月、水、木、金午前、松田醫學士診察火、
土、午前、窮者施診、火、木、午前、入院診斷後隨時
應需、松田、林、兩副長は目下當院に在勤、

電話本局（八八八病院用 八九八私宅用）　東洋內科醫院

東京市神田區駿河臺鈴木町二番地（御茶水橋畔）

院長　醫學士　高田畊安

神奈川縣相州高座郡茅ケ崎村濱（停車場所在）

電話茅ケ崎（二番）　南湖院

河野副長は目下當院に在勤、
院長診察土曜日午後〇同時窮者施診、
副長診察月、火、水、木、金、土、午前
入院診斷後隨時應需、

毎月一日一回發行

ライオン歯磨

慈善券

第九回決算に付愛用諸君に謹告

一金壹萬九千貳百四拾八圓九拾八錢貳厘
但自四十二年一月至同十一月滿一ヶ年間ライオン歯磨小袋壹千九百貳拾四萬八千九百八拾貳袋賣捌に付慈善券總金額

内金九千貳百四拾參圓四拾六錢五厘
但同上年間ライオン歯磨慈善券付空袋九百貳拾四萬參千四百六拾五袋引換金額

差引々換殘額金壹萬〇〇〇五圓五拾壹錢七厘

弊店發賣ライオン歯磨が現代理想的の製品として一般御需用者の嗜好に適し其製販額の益々饒多を來たすと共に小袋入添附の慈善券より生ずる金額も亦豫想外の好成績に進み現に昨年度の如きは之を前年に比して優に二千餘圓の增加を見るに至りたるは全く愛用諸彥御同情の厚きに基因するものにして弊店の光榮として深く感謝する所也然れ共猶遺憾に堪へざるは發行したる慈善券の金額と引換金額と相去る甚だ遠き一事にして其引換未了に屬するもの卽ち前揭の如し、由來弊店の素志たる縱ひ零碎の金額なればとて積れば無慮千萬の巨額に達し而も鰥寡孤獨が當然受くべき福源となるものなるが故に一個の慈善券たり共無益に放棄し他の廢物と同一視せざらん事を請ふにあり、されば弊店は當初の希望に從ひ各位が惻隱の御同情を仰がんが爲め其未了引換期限を來る八月十五日迄延長し以て出來得る限りの好果を收めんとす、因て四十二年十二月限りの慈善券附空袋御所持の諸彥は同日迄に本支店に就て引換の勞を執られん事を請ひ、猶斯くても引換の完了に至らずして自然廢棄に歸すべき分の金額は如何に處理すべきか、這は愛用諸彥の御高見に隨ひ適當なる事業に貢献せんとす希くは此方法に付きても十分に注意を拂はれ八月十五日を期して東京本店宛續々御高敎を垂れ給はん事を弊店は之に依り第九回の決算を了し以て其明細を報告し各位御愛顧の萬一に酬ひんと欲す
追て其方法及金額等は確定次第發表致すべし

明治四十三年七月

東京市神田區柳原川岸
ライオン歯磨
ばんざい歯磨
發賣元 小林富次郎敬白

支舖
大阪市東區博勞町
名古屋市東區傳馬町
淸國所在地天津、漢口

明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可